

平成30年度

北海道立総合研究機構
道南農業試験場年報

令和元年8月

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

資料の取り扱い

本資料掲載の研究成績等については未公開のものであるため、複製、転載及び

引用に当たっては、必ず原著者の了承を得た上で利用して下さい。

平成30年度

北海道立総合研究機構 道南農業試験場年報

目 次

I 概要	1
1. 沿革	1
2. 位置及び土壌	1
3. 面積及び利用区分	2
4. 機構	2
5. 職員の配置	3
6. 職員	3
7. 歳入決算額	4
8. 歳出決算額	4
9. 建物	5
10. 新たに購入した備品	5
II 作 況	6
1. 気象概況	6
2. 当场作況	9
III 試験研究及び地域支援活動	11
1. 試験研究・地域支援の概要	11
(1)生産環境グループ(栽培環境)	11
(2)生産環境グループ(病虫)	11
(3)地域技術グループ(作物)	11
(4)地域技術グループ(地域支援)	11
2. 試験研究・地域支援の内容	12
(1)生産環境グループ(栽培環境)	12
(2)生産環境グループ(病虫)	13
(3)地域技術グループ(作物)	13
(4)地域技術グループ(地域支援)	15
3. 道南地域農業技術支援会議の活動	15
4. 平成31年普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項	16
5. 論文ならびに資料	17
(1)研究論文	17
(2)口頭発表	17
(3)専門雑誌、著書・資料	18
(4)新聞記事	20
6. 印刷刊行物	20
7. 技術指導・技術相談	20

IV	その他の活動	22
1.	職員研修	22
2.	研修生の受け入れ	24
3.	参観	24
4.	主催事業等	24
5.	マスコミ対応	26
6.	委員会活動	28
7.	場内研修	29
8.	表彰・資格	29
9.	外部委員会等への参加	30
V	自己点検	32
1.	平成30年度計画に係る項目別実績の自己点検結果	32
	付表1. 作物標準栽培法の概要	35
	付表2. 土壌の理化学的特性	36

I 概 要

1. 沿革

(1) 戦前

道南農業試験場は、明治42年、亀田郡大野村（現在の北斗市）に北海道庁立渡島農事試験場（総面積9.85haの内、畑0.46ha、水田0.40ha）として開設された。翌43年には北海道拓殖計画に基づく農業試験機関の統合により国に移管され、北海道農事試験場渡島支場と改称、水稻、麦類及び豆類などの試験に着手した。

明治44年には果樹（りんご、なし類、おうとう、ぶどう及びもも）の栽培を開始した。さらに、大正7年からは水稻品種改良に純系分離育種法を取り入れるなど、道南地方の自然条件に適合する稲作、畑作及び園芸の試験研究を推し進めた。その間、水稻、大豆などで多くの優良品種を育成するとともに農業経営方式の確立に努め、地域農業の発展に貢献した。昭和17年には北海道農業試験場渡島支場と改称した。

(2) 戦後

昭和25年、全国農業試験研究機関の整備統合により従来の機関は国立、道立に二分され、当時は道費支弁の北海道立農業試験場渡島支場となった。昭和28年、大野町字向野に用地3haを買収して果樹園を移設し、さらに昭和36年からは庁舎、調査室及び作業室等施設の整備拡充計画を推進した。

昭和39年、道立農業試験場の機構改革により北海道立道南農業試験場と改称した。昭和46年には、施設園芸の近代的推進の中核的役割を果たす農業者及び技術指導者などを養成する目的で施設園芸の研修施設としては道内最大のプラスチックハウス（約0.1ha）を設置した。さらに昭和56、57年にはコンピューター制御による環境制御温室と地温制御温室の完成を見ている。昭和62年には全国的な「農業試験研究情報システム」整備の一環として情報処理室を設置し、道立農業試験場各場間を結ぶ情報ネットワーク（HARIS）が整備された。その結果、各種農業情報や研究情報などの有効利用が促進されることとなった。

平成元年、完全自動化された花き省エネ栽培温室を設置し、同3年には植物馴化装置（3連グロースキャビネット）を導入し、翌年には米の食味分析計を整備した。なお、果樹試験は、研究基本計画に基づく機構改正により平成4年3月31日をもって道立中央農業試験場に統合された。

平成6年、前年の大冷害の経験から冷水田の整備が行われ、水稻品種の耐冷性強化のための新たな施設が完成した。平成7年には、庁舎の増改築が行われ高精度実験室や50人規模の会議室が新設されたほか、専技室に技術相談室が整備された。

平成12年、水稻優良品種開発施設として稲の世代促進を目的とした年3期作が可能な水田温室と管理棟が完成し、13年から本格的な品種開発試験を開始した。

また、平成12年の研究科の再編統合に伴い、機動的な研究体制とするために、園芸科と土壤肥料科が統合され、「園芸環境科」が誕生した。さらに、専門技術員室は専技と研究職の次長からなる、研究成果の実証・体系化を行う「技術普及部」に改組され、研究部（園芸環境科、病虫科、作物科、管理科）とあわせて2部体制が敷かれた。

その後、本道農業を巡る情勢の変化に伴い平成18年より道南圏（渡島、檜山）における園芸を主とした地域対応研究に特化した場と位置づけられ、水稻、いちごの育種担当場から品種開発支援場となった。同時に組織の再編も行われ、研究部は、作物、栽培環境、病虫および管理科の4科となった。一方、技術普及部には部長以下、次長、主任普及指導員（旧主任専技）、地域支援の主査が配置された。

(3) 独法後

平成22年4月、道立試験研究機関の地方独立行政法人化に伴い、これまでの北海道立道南農業試験場は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部道南農業試験場に改組された。研究部は地域技術、生産環境グループの2グループ制となり、2研究主幹ならびに主査（作物）、主査（栽培環境）、主査（病虫）および主査（地域支援）が配置された。普及指導員は、北海道農政生産振興局技術普及課の道南農試在勤技術普及室として配置されることになり、上席普及指導員、主任普及指導員および主査（地域支援）の3名体制となった。旧技術普及部の普及センター等関係機関に対する地域支援業務は、技術普及室の3普及指導員（30年より上席及び主任の2名）および地域技術グループ研究主幹、主査（地域支援）により対応することとなった。28年には、新しく育苗ガラス温室を整備した

2. 位置及び土壌

当該（北斗市本町680番地）は、北緯41° 53'、東経140° 39'、海拔25mに位置し、JR函館本線新函館北斗駅から南に3km、函館市の北約20kmのところにある。地形は平坦で、土壌は褐色低地土（河成沖積）に分類される。水田土壌は腐植を含む埴壤土（減水深30～40mm/日）である。40～50cm以下は砂礫層となっている。作土の粘着性、可塑性がやや強く、硬度（ち密度）は約18mm、鋤床層で約22mmである。斑鉄は作土でやや

少なく、鋤床層でやや多い。マンガン斑は作土、鋤床層ともに観察されない。なお、作土深は12cm余、鋤床層は8～15cmでやや厚い。

一方、畑地では表層に腐植を含む壤土が分布しており、次層は壤土～砂壤土、50～70cm以下は礫にすこぶる富む砂壤土～礫層となっている。構造は不鮮明であるが、孔隙がやや発達し、保水性は中庸で、粘着性、可塑性がやや強い。全般に膨軟で礫層の深い所まで根が分布している。

3. 面積及び利用区分

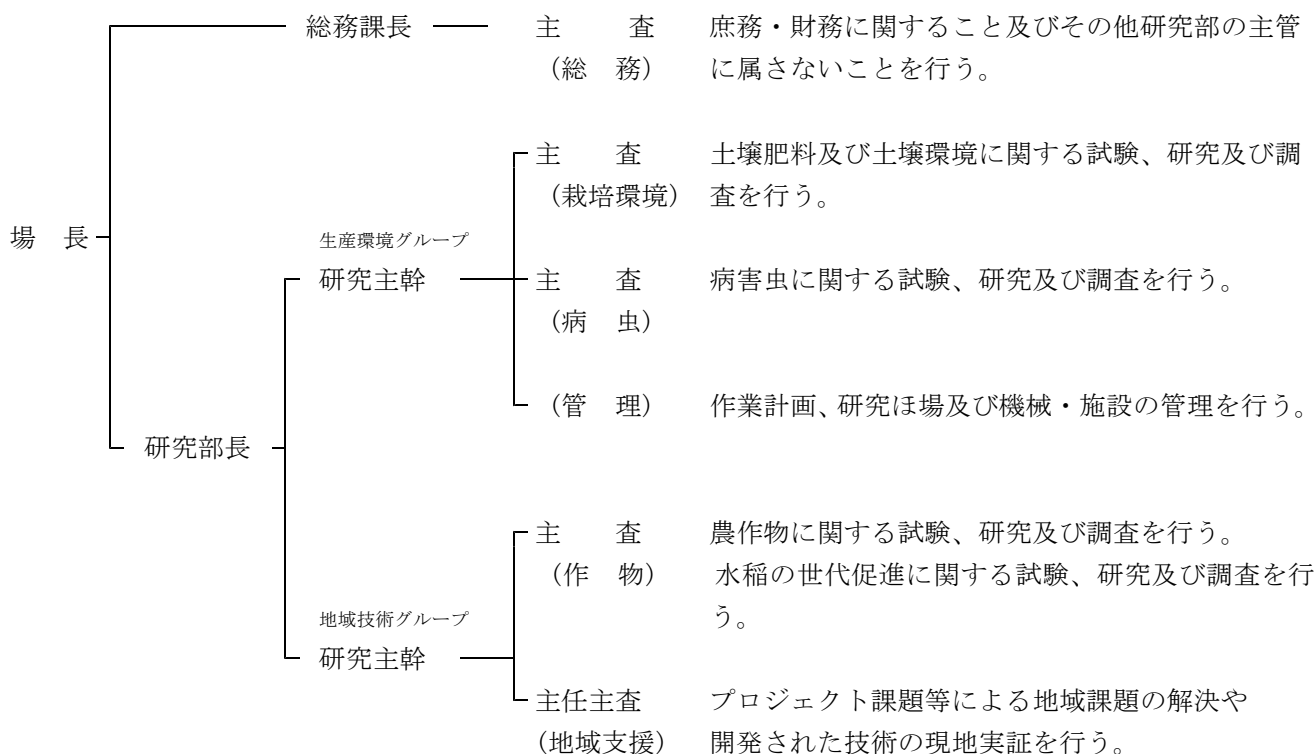
総面積 127,202 m²

区 分	面 積	区 分	面 積
構内建物用地	20,372m ²	試験ほ場（畑）	37,290m ²
道 路	10,530	〃（緑地管理）	24,715
防 風 林	2,170	そ の 他	17,125
試験ほ場（田）	15,000	計	127,202

※借地も含む。

4. 機 構

（平成31年3月31日現在）



（参考）

技術普及室（北海道農政部技術普及課、道南農試に常駐）

上席普及指導員－主任普及指導員

5. 職員の配置

(平成31年3月31日現在)

	場 長	研究 部長	研究 主幹	総務課		裁 培 環 境	病 虫	管 理	作 物	地 域 支 援	計
				課 長	総 務						
研 究 職	1	1	2			2	3		3	1	13
行 政 職				1	3						4
研究支援職								3			3
計	1	1	2	1	3	2	3	3	3	1	20

6. 職 員

(1) 現在員

(平成31年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
場 長	加 藤 淳	研究主幹	中 住 晴 彦
研究部長	佐 藤 毅	主査(作物)	尾 崎 洋 人
研究主幹	小野寺 政 行	研究主任	田 澤 暁 子
主査(栽培環境)	坂 口 雅 己	〃	高 濱 雅 幹
主査(病虫)	青 木 元 彦	主任主査(地域支援)	乙 部 裕 一
研究主査	角 野 晶 大	総務課長	数 藤 磯 次
研究主任	三 澤 知 央	主査(総務)	佐々木 光 浩
主 任	佐々木 盛 久	専 門 主 任	石 黒 一 幸
主 任	竹 内 達 哉	主 任	岡 めぐみ
技 師	順 西 奈 緒	計	20名
専門研究員	日 笠 裕 治		

(2) 転入者及び新規採用者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
研究主幹	小野寺政行	30.4.1	北見農試から	総務課長	数藤 磯次	30.4.1	北海道農政部から
主 査 (栽培環境)	坂口 雅己	30.4.1	中央農試から	主 任	岡 めぐみ	30.4.1	渡島総合振興局から
専門研究員	日笠 裕治	30.4.1	再 任 用				

(3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
場長	加藤 淳	31.3.31	退 職	専門主任	石黒 一幸	31.3.31	退 職 (上川総合振興局)
専門研究員	日笠 裕治	31.3.31	退 職	研究主任	田澤 暁子	31.3.31	北見農試へ
研究主任	三澤 知央	31.3.31	法人本部へ				

7. 歳入決算額

(単位：円)

予 算 科 目	決 算 額	備 考
依頼試験手数料等	0	
農産物売払収入	904,870	
法人財産使用料等	160,202	
共同受託研究収入	1,200,000	
国庫受託研究収入	210,000	
道受託研究収入	3,401,160	
その他受託研究収入	11,202,000	
施設整備費補助金収入	710,000	
合 計	17,788,232	

8. 歳出決算額

(単位：円)

予 算 科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
業 務 費			
重点研究費	1,500,000	114,024	次年度繰越1,385,976
職員研究奨励費	440,000	440,000	
経常研究費	9,759,000	9,739,615	
技術普及指導費	220,000	220,000	
研究用備品整備費	4,050,000	4,050,000	
維持管理経費（研究）	725,000	725,000	
研究用備品整備費（積立金）	1,938,384	1,938,384	
一般管理費			
維持管理経費	26,258,000	26,258,000	
運営経費	16,676,198	16,597,813	
受託研究等経費			
共同受託研究費	1,200,000	1,200,000	
国庫受託研究費	210,000	210,000	
道受託研究費	3,401,000	3,401,000	
その他受託研究費	11,202,000	11,202,000	
補助金			
施設整備費補助金	710,000	709,993	
繰越積立金			
重点研究費（繰越積立金）	354,699	354,699	
合 計	78,644,281	77,160,528	

※事業費支弁人件費振替額を除く

9. 建 物

(1) 公用財産

	本 町			向 野		
	棟数	面積(m ²)	建築年次	棟数	面積(m ²)	建築年次
庁 舎	1	969.12	S36			
記念館	1	132.23	T 8			
ポンプ室	1	6.48	S44			
調査室	1	165.25	S44			
物品庫	1	66.11	S45			
燃料費	1	8.30	S45			
ポンプ小屋	1	9.88	S45			
便所	1	9.72	S26			
ガス格納庫	1	4.95	S49			
環境制御温室	1	534.15	S56			
総合倉庫	1	133.85	S58			
管理科兼土壌実験室	1	197.35	S59			
車庫	1	100.75	S60			
果樹品質調査室				1	66.42	S63
花き省エネ栽培温室	1	655.92	H 1			
農機具格納庫	1	350.00	H 2			
作業室	1	145.74	H 3			
昆虫飼育実験室	1	106.92	H 4			
土壌病害虫総合実験温室	1	275.04	H 5			
便所	1	6.62	H 5			
揚水舎	1	3.31	H 7			
ポンプ室				1	2.25	S42
農業資材倉庫	1	243.00	H 9			
水田温室	1	2,340.00	H10			
運搬車用車庫	1	86.49	H15			
育苗ガラス温室	1	252.00	H28			
トラクター車庫	1	84.95	H29			
計	25	6,803.18		2	68.67	

10. 新たに設置した主要施設及び備品

(単価50万円以上、単位：円)

品 名	規 格	数 量	金 額	備 考
色彩色差計	CR-5	1	1,686,960	
バイオクリーンベンチ	CCV-1606E	1	1,814,400	
実体顕微鏡	SZX16-3151	1	1,544,400	

Ⅱ 作 況

1. 気象概況

根雪初日は平年に比べ 27 日早く、根雪終日は 4 日遅く、積雪期間は平年より 31 日長かった。また、耕鋤始は平年並、晩霜は 4 日早かった。

4 月：平均気温は 0.8℃、最高気温は 0.6℃、最低気温は 1.4℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より 12.2mm 少なく、平年の 84% であった。日照時間は 15.2 時間少なく、同 92% であった。

5 月：平均気温は 0.3℃、最低気温は 0.7℃平年に比べそれぞれ高く、最高気温は同等だった。降水量は平年より 55.2mm 多く、平年の 170% であった。日照時間は 14.1 時間少なく、同 93% であった。

6 月：平均気温、最高気温および最低気温はいずれも平年並であった。降水量は平年より 56.2mm 多く、平年の 175% であった。日照時間は 24.1 時間少なく、同 86% であった。

7 月：平均気温は 0.4℃、最低気温は 0.7℃平年に比べそれぞれ高く、最高気温は平年並だった。降水量は平年より 24.1mm 多く、平年の 118% であった。日照時間は 10.2 時間少なく、同 92% であった。

8 月：平均気温は 1.1℃、最高気温は 1.3℃、最低気温は 0.7℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より 70.1mm 多く、平年の 148% であった。日照時間は 50.4 時間少なく、同 65% であった。

9 月：平均気温は 0.4℃、最高気温は 0.4℃、最低気温は 0.7℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より 20.3mm 少なく平年の 84% であった。日照時間は平年並であった。

10 月：平均気温は 1.4℃、最高気温は 2.0℃、最低気温は 1.6℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より 85.8mm 多く平年の 179% であった。日照時間は 20.4 時間多く、同 113% であった。

本年の初霜は 11 月 13 日で平年より 24 日遅く、降雪初日は 11 月 21 日で平年より 13 日遅かった。

農耕期間中（5 月～9 月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。気温：7 月は高温、8 月、9 月は低温、5 月、6 月は平年並であった。この期間の日平均気温の積算値は 2,707℃であった（平年差-20℃、平年比 99%）。

降水量：9 月は平年を下回ったが、それ以外は平年を上回り、特に 6 月下旬は平年の 354%、7 月上旬は同 403% と大きく上回った。この期間の降水量の積算は 752mm であった（平年差+186mm、平年比 133%）。

日照時間：5 月から 9 月まで平年を下回り、7 月上旬はほとんど日照が無く平年の 8%、6 月下旬、7 月中旬、8 月下旬も平年の半分程度だった。この期間の日照時間の積算は 709 時間であった（平年差-101 時間、平年比 88%）。

季節調査票

区別	根雪初日 (年. 月. 日)	根雪終日 (年. 月. 日)	積雪期間 (日)	降雪終日 (年. 月. 日)	耕鋤始 (年. 月. 日)	晩 霜 (年. 月. 日)	初 霜 (年. 月. 日)	降雪初日 (年. 月. 日)
本年	H29. 11. 19	H30. 3. 20	122	H30. 4. 9	H30. 4. 9	H30. 4. 28	H30. 11. 13	H30. 11. 21
平年	12. 16	3. 16	91	4. 10	4. 9	5. 2	10. 20	11. 8
比較	▲ 27	4	31	▲ 1	0	▲ 4	24	13

注1) 耕鋤始は農試データ、それ以外は函館地方気象台（函館市美原）の観測値を使用した。

注2) 平年値はてん蔵（前10か年）による。

注3) 表中▲は「早」を示す。

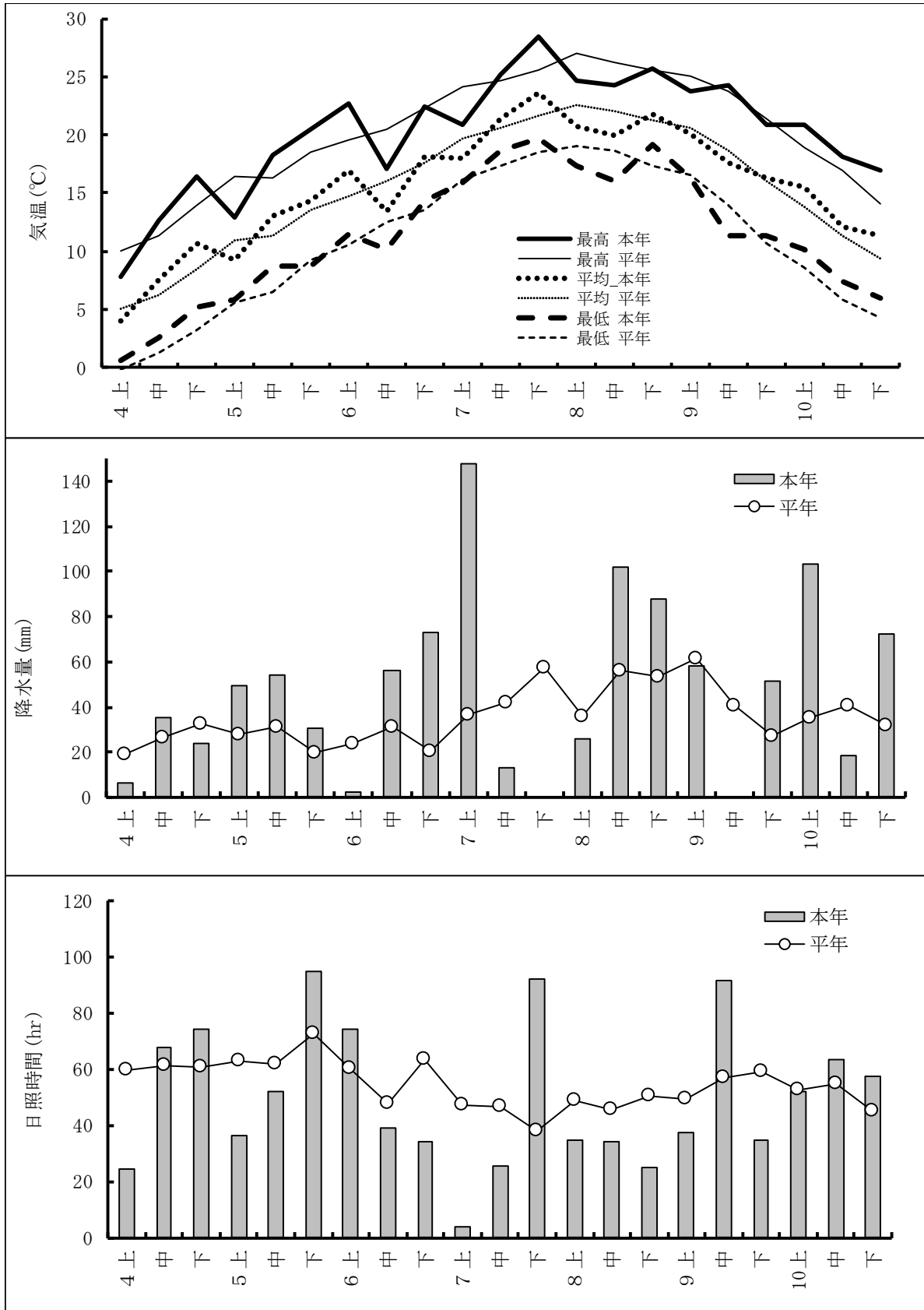
農耕期間の積算値（5 月～9 月）

区別	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	2,707	752	709
平年	2,727	566	810
比較 (%)	▲ 20 99	186 133	▲ 101 88

気象表（平成30年）

月 旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)				日照時間 (hr)				
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	(%)	本年	平年	比較	(%)	
4	上	4.0	5.1	▲1.1	7.8	10.1	▲2.3	0.7	-0.2	0.9	6.5	19.1	▲12.6	34	24.4	59.4	▲35.0	41
	中	7.6	6.3	1.3	12.7	11.3	1.4	2.6	1.3	1.3	35.5	26.3	9.2	135	67.5	61.3	6.2	110
	下	10.7	8.5	2.2	16.4	13.9	2.5	5.2	3.2	2.0	24.0	32.8	▲8.8	73	74.3	60.8	13.5	122
5	上	9.2	10.9	▲1.7	12.9	16.4	▲3.5	5.9	5.6	0.3	49.5	28.2	21.3	176	36.3	63.1	▲26.8	58
	中	13.1	11.3	1.8	18.2	16.3	1.9	8.7	6.5	2.2	54.5	31.1	23.4	175	52.2	61.7	▲9.5	85
	下	14.3	13.6	0.7	20.5	18.5	2.0	8.7	9.2	▲0.5	30.5	20.0	10.5	153	94.7	72.5	22.2	131
6	上	17.0	14.7	2.3	22.7	19.6	3.1	11.5	10.5	1.0	2.0	23.6	▲21.6	8	74.0	60.2	13.8	123
	中	13.4	16.0	▲2.6	17.1	20.5	▲3.4	10.2	12.5	▲2.3	56.5	31.2	25.3	181	39.3	47.7	▲8.4	82
	下	18.1	17.6	0.5	22.5	22.3	0.2	14.4	13.6	0.8	73.0	20.6	52.4	354	34.0	63.6	▲29.6	53
7	上	18.0	19.7	▲1.7	20.9	24.1	▲3.2	15.9	16.2	▲0.3	147.5	36.6	110.9	403	3.7	46.9	▲43.2	8
	中	21.4	20.6	0.8	25.2	24.7	0.5	18.7	17.3	1.4	13.0	42.1	▲29.1	31	25.4	46.5	▲21.1	55
	下	23.6	21.6	2.0	28.5	25.6	2.9	19.7	18.5	1.2	0.0	57.7	▲57.7	0	91.9	37.7	54.2	244
8	上	20.8	22.6	▲1.8	24.6	27.0	▲2.4	17.3	19.0	▲1.7	26.0	35.9	▲9.9	72	34.8	48.7	▲13.9	71
	中	20.0	22.1	▲2.1	24.3	26.2	▲1.9	16.0	18.6	▲2.6	102.0	55.9	46.1	182	34.4	45.6	▲11.2	75
	下	21.8	21.2	0.6	25.7	25.6	0.1	19.2	17.4	1.8	87.5	53.7	33.8	163	25.0	50.4	▲25.4	50
9	上	20.1	20.6	▲0.5	23.7	25.1	▲1.4	16.3	16.5	▲0.2	58.0	61.4	▲3.4	94	37.4	49.3	▲11.9	76
	中	17.6	18.6	▲1.0	24.3	23.8	0.5	11.3	13.9	▲2.6	0.0	40.9	▲40.9	0	91.6	56.7	34.9	162
	下	16.3	16.0	0.3	20.9	21.4	▲0.5	11.4	10.7	0.7	51.5	27.5	24.0	187	34.5	59.0	▲24.5	58
10	上	15.5	13.8	1.7	20.9	18.9	2.0	10.2	8.6	1.6	103.0	35.3	67.7	292	52.1	52.7	▲0.6	99
	中	12.1	11.3	0.8	18.1	17.0	1.1	7.4	5.8	1.6	18.5	40.8	▲22.3	45	63.4	55.0	8.4	115
	下	11.4	9.4	2.0	16.9	14.1	2.8	6.0	4.3	1.7	72.5	32.1	40.4	226	57.7	45.1	12.6	128
4月	7.4	6.6	0.8	12.3	11.7	0.6	2.8	1.4	1.4	66.0	78.2	▲12.2	84	166.2	181.4	▲15.2	92	
5月	12.3	12.0	0.3	17.3	17.1	0.2	7.8	7.1	0.7	134.5	79.3	55.2	170	183.2	197.3	▲14.1	93	
6月	16.2	16.1	0.1	20.8	20.8	0.0	12.0	12.2	▲0.2	131.5	75.3	56.2	175	147.3	171.4	▲24.1	86	
7月	21.1	20.7	0.4	25.0	24.8	0.2	18.1	17.4	0.7	160.5	136.4	24.1	118	121.0	131.2	▲10.2	92	
8月	20.9	22.0	▲1.1	24.9	26.2	▲1.3	17.6	18.3	▲0.7	215.5	145.4	70.1	148	94.2	144.6	▲50.4	65	
9月	18.0	18.4	▲0.4	23.0	23.4	▲0.4	13.0	13.7	▲0.7	109.5	129.8	▲20.3	84	163.5	165.0	▲1.5	99	
10月	12.9	11.5	1.4	18.6	16.6	2.0	7.8	6.2	1.6	194.0	108.2	85.8	179	173.2	152.8	20.4	113	

気象図 (平成30年)



2. 当场作況

水 稲 不 良

播種は平年より4日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、移植時の苗の形質は、草丈は平年より短く、茎数はやや上回り、葉数はほぼ平年並、地上部乾物重は平年を下回ったが、充実度は平年並だった。

移植は平年より1日遅い5月21日に行った。6月上旬までは概ね天候に恵まれたため、苗の活着は良好だった。その後、6月中旬頃に10日間低温寡照傾向が続いたため、生育が停滞した。平年と比較して、幼穂形成期と止葉期は同等から1日早く、出穂期は1日から2日早かった。草丈は、6月中旬頃は平年を上回ったがそれ以外では平年より短く推移し、茎数は生育期間を通じて平年を大きく下回った。主稈葉数は生育期間を通じて平年並からわずかに少なく経過し、止葉葉数も平年をわずかに下回った。出穂と開花は順調だったが、登熟期間は低温寡照に経過したため登熟はやや緩慢で、平年と比較して成熟期は1~3日遅く、登熟日数は概ね平年並だった。

平年と比較して成熟期の稈長は1割程度短く、穂長は同等からやや長く、 m^2 あたり穂数は1~2割少なく、一穂粒数は「ふっくりんこ」ではやや少なく、「ななつぼし」ではやや多く、 m^2 あたり粒数としては両品種とも平年の85%だった。平年と比較して稔実歩合は低く、登熟歩合は「ふっくりんこ」では高かったが「ななつぼし」では低かったため、 m^2 あたり登熟粒数は平年を下回った。

平年と比較して精玄米千粒重は「ふっくりんこ」は重く、「ななつぼし」は軽く、屑米歩合は「ふっくりんこ」は低く、「ななつぼし」は高かった。収量は「ふっくりんこ」では平年の98%の57.5kg/a、「ななつぼし」では同85%の50.9kg/aであった。

なお、検査等級は両品種とも1等で平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。事由：播種は平年より4日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、移植時の苗の形質は、草丈は平年より短く、茎数はやや上回り、葉数はほぼ平年並、地上部乾物重は平年を下回ったが、充実度は平年並だった。

移植は平年より1日遅い5月21日に行った。6月上旬までは概ね天候に恵まれたため、苗の活着は良好だった。その後、6月中旬頃に10日間低温寡照傾向が続いたため、生育が停滞した。平年と比較して、幼穂形成期と止葉期は同等から1日早く、出穂期は1日から2日早かった。草丈は、6月中旬頃は平年を上回ったがそれ以外では平年より短く推移し、茎数は生育期間を通じて平年を大きく下回った。葉数は生育期間を通じて平年並からわずかに少なく経過し、止葉葉数も平年をわずかに下回った。出穂と開花は順調だったが、登熟期間は低温寡照に経過したため登熟はやや緩慢だった。平年と比較して成熟期は1~3日早く、登熟日数は概ね平年並だった。

平年と比較して成熟期の稈長は1割程度短く、穂長は同等からやや長く、 m^2 あたり穂数は1~2割少なく、一穂粒数は「ふっくりんこ」ではやや少なく、「ななつぼし」ではやや多く、 m^2 当粒数としては両品種とも平年の85%だった。平年と比較して稔実歩合は低く、登熟歩合は「ふっくりんこ」では高かったが「ななつぼし」では低かったため、 m^2 当登熟粒数は平年を下回った。

平年と比較して千粒重は、「ふっくりんこ」は重く、「ななつぼし」は軽く、屑米歩合は「ふっくりんこ」は低く、「ななつぼし」はやや高かった。精玄米重は「ふっくりんこ」では平年の98%の57.5kg/a、「ななつぼし」では同85%の50.9kg/aであった。

なお、検査等級は両品種とも1等で平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

生育及び収量調査成績(平成30年)

項 目	ふっくりんこ			ななつぼし			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播 種 期 (月日)	4.23	4.19	4	4.23	4.19	4	
出 芽 期 (月日)	4.30	4.26	4	4.30	4.26	4	
移 植 期 (月日)	5.21	5.20	1	5.21	5.20	1	
幼 穂 形 成 期 (月日)	7.03	7.04	▲ 1	6.30	6.30	0	
止 葉 期 (月日)	7.17	7.18	▲ 1	7.15	7.15	0	
出 穂 期 (月日)	7.28	7.29	▲ 1	7.25	7.27	▲ 2	
成 熟 期 (月日)	9.12	9.13	▲ 1	9.06	9.09	▲ 3	
穂 揃 日 数 (日)	4	4	0	6	5	1	
登 熟 日 数 (日)	46	46	0	43	44	▲ 1	
生 育 日 数 (日)	142	147	▲ 5	136	143	▲ 7	
移植時地上部乾物重 (g/100本)	2.29	2.76	▲ 0.47	2.15	2.73	▲ 0.58	
地上部乾物重/草丈	0.19	0.20	▲ 0.01	0.21	0.20	0.01	
草丈(cm) 移植時	11.9	13.7	▲ 1.8	10.1	13.8	▲ 3.7	
	6月20日	33.0	31.7	1.3	34.0	33.3	0.7
	7月20日	71.9	70.9	1.0	71.1	73.5	▲ 2.4
	8月20日	89.9	92.1	▲ 2.2	84.5	92.1	▲ 7.6
茎数(本/m ²) 移植時	95	90	5	100	88	12	
	6月20日	327	526	▲ 199	358	484	▲ 126
	7月20日	673	865	▲ 192	575	785	▲ 210
	8月20日	651	727	▲ 76	560	695	▲ 135
葉数(枚) 移植時	3.2	3.3	▲ 0.1	3.2	3.4	▲ 0.2	
	6月20日	7.0	7.6	▲ 0.6	7.3	7.7	▲ 0.4
	7月20日	10.7	10.8	▲ 0.1	10.4	10.8	▲ 0.4
	8月20日	10.7	10.9	▲ 0.2	10.4	10.8	▲ 0.4
止 葉 葉 数 (枚)	10.7	10.9	▲ 0.2	10.4	10.8	▲ 0.4	
成熟期 稈長 (cm)	69.5	75.1	▲ 5.6	67.3	74.5	▲ 7.2	
成熟期 穂長 (cm)	17.0	16.2	0.8	16.0	16.3	▲ 0.3	
成熟期 穂数 (本/m ²)	634	699	▲ 65	544	673	▲ 129	
一 穂 粃 数	42.6	45.6	▲ 3.0	51.8	49.2	2.6	
m ² 当 粃 数 (×1000)	27.0	31.8	▲ 4.8	28.2	33.0	▲ 4.8	
m ² 当 稔 実 粃 数 (×1000)	25.1	30.9	▲ 5.8	25.2	32.0	▲ 6.8	
m ² 当 登 熟 粃 数 (×1000)	24.3	25.4	▲ 1.2	23.3	28.4	▲ 5.1	
稔 実 歩 合 (%)	92.9	93.6	▲ 0.7	89.6	94.8	▲ 5.2	
登 熟 歩 合 (%)	89.9	80.0	9.9	82.6	86.0	▲ 3.4	
粃 摺 歩 合 (%)	79.4	76.6	2.8	78.5	80.1	▲ 1.6	
屑 米 重 (kg/a)	2.5	4.4	▲ 1.9	2.5	2.3	0.2	
屑 米 歩 合 (%)	4.3	7.0	▲ 2.7	4.9	3.6	1.3	
千 粒 重 (g)	23.3	22.9	0.4	21.4	21.7	▲ 0.3	
わ ら 重 (kg/a)	64.5	67.7	▲ 3.2	62.4	66.6	▲ 4.2	
精 粃 重 (kg/a)	72.4	76.4	▲ 4.0	64.8	74.9	▲ 10.1	
精 玄 米 重 (kg/a)	57.5	58.4	▲ 0.9	50.9	59.9	▲ 9.0	
収 量 平 年 比 (%)	98	100	—	85	100	—	
玄 米 検 査 等 級	1	1下	—	1	2上	—	

注1)平年値は、前7か年中、平成25年(最凶年)、同29年(最豊年)を除く5か年の平均値を用いた。

注2)苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m²(33cm×12cm)、1株3本植え。

注3)本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ8、9.7、6.9(kg/10a)施用した。

注4)篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5)登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6)表中▲印は「減」または「早」を示す。

Ⅲ 試験研究及び地域支援活動

1. 試験研究・地域支援の概要

(1) 生産環境グループ（栽培環境）

経常研究では、「環境保全型有機質資源施用基準の設定調査（土壌機能実態モニタリング調査）」において、生産者圃場5地区8地点の土壌調査等を実施した。

経常(各部)研究では、「地力窒素を考慮した夏秋どりトマトに対する施肥対応技術の開発」において、従来の硝酸態窒素に加え、熱水抽出性窒素を診断項目とする窒素施肥対応法について検討した。

道受託研究では、「農業農村整備事業等に係る土壌調査」において所定の土壌調査等を実施し報告した。

受託(国庫)研究では、「農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査、定点調査）」において、森町の生産者圃場8地点について土壌調査およびアンケート調査を行った。

(2) 生産環境グループ（病虫）

クリーン農業に関する課題として、経常（各部）研究「露地圃場における光応答反応を利用した害虫管理技術の開発」および「転炉スラグを用いたpH矯正によるホウレンソウ萎凋病の被害軽減対策とリスク評価」を実施した。

公募型の課題では、内閣府SIP事業のうち、「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発 体2-（1）北海道地域における新規土壌還元消毒技術の開発、体3-（1）北海道におけるイチゴ病害虫の新防除体系の実証」を実施した。

農作物病害虫診断試験では合計40件の診断依頼があった。

病害虫発生予察事業では農試定点ほにおける各作物（水稲、ばれいしょ、キャベツ）の主要病害虫（斑点米カメムシ、コナガ、いもち病等）の発生状況を調査し、結果を病害虫発生予察情報として提供した。

新農業資材では殺虫剤8剤、殺菌剤15剤の効果試験を実施し、殺虫剤11剤、殺菌剤4剤が指導参考事項となった。

(3) 地域技術グループ（作物）

水稲試験では、奨励基本(移植)において、割粃が少なく収量性・耐倒伏性に優れた「空育191号」、「空育194号」（対照：「きらら397」・「そらゆき」）の有望度

を「やや有望」とした。「上育474号」（対照：「ななつぼし」）は収量性や炊飯米の外観に優れたため単年評価は「やや有望」としたが、現地試験の評価で一定の傾向が認められないため、有望度は「並」と評価した。奨励基本(直播)では移植直播兼用の早生系統「上育479号」（対照：「ほしまる」・「えみまる」）は収量性や食味でやや優れたものの低温苗立性に優れる「えみまる」品種化直後であり今後の動向を注視する必要がある。よって有望度は試験継続の「再検討」とした。また、低硬化性で多収の「上育糯478号」は対照品種である「風の子もち」「きたゆきもち」「はくちょうもち」に比べ収量性が高かったが、当地区で栽培されている「風の子もち」より熟期がやや遅れることから、場内試験の継続を念頭におき「再検討」とした。

畑作試験では、奨励基本試験において、大豆では白目中大粒の「十育267号」と「十育270号」の有望度をやや劣る、「十育269号」をやや優る、黒大豆の「十育268号」と「十育271号」を再検討とした。小豆では、普通小豆についてはコンバイン収穫適性が優れる「十育173号」とやや多収の「十育176号」を再検討、耐病性加工適性が優れる「十育170号」をやや劣る、大納言小豆については「十育177号」を再検討とした。

園芸試験では、「野菜の地域適応性検定」においていちご春どり系統「空知37号」の適応性を検定し、多収性に優れたが規格内果平均一果重および食味がやや劣ったため「やや劣る」とした。また、共同研究「さつまいも非破壊測定技術の開発」、公募型研究「環境ストレスによるベビーリーフの高品質化に関する国際連携研究」を新たに開始した。

新資材の実用化試験では、水稲除草剤4剤が指導参考事項となった。

(4) 地域技術グループ（地域支援）

地域農業が直面する技術的な課題の解決を目指して、地域で実施される試験に対する支援や技術的な情報の提供等を、研究部、技術普及室、各農業改良普及センター、渡島総合振興局、檜山振興局、関係団体と連携を密にしながら行った。また、渡島地域農業技術支援会議、並びに檜山地域農業技術支援会議の取組として、地域における課題の把握に努めるとともに、有望であった課題について、下記のようなプロジェクト

チームを組織して取り組んだ。

プロジェクトチーム（平成30年4月）

チーム長 地域技術G研究主幹 中住 晴彦

分担事項	期間	チーム員 所属・職・氏名
北斗市におけるトマトの褐色根腐病の対策 （平成28年度渡島地域農業技術支援会議要望課題；北斗市におけるトマトの褐色根腐病の対策）	平成29年～	地域技術G主任主査(地域支援) 乙部 裕一 生産環境G研究主査 角野 晶大 生産環境G研究主任 三澤 知央
		技術普及課道南農試駐在（技術普及室） 上席普及指導員 池田 亮司 主任普及指導員 狩野 康弘
春まき小麦「春よ恋」低収要因の解明と対策 （平成28年度檜山地域農業技術支援会議要望課題；春まき小麦「春よ恋」の収量増加対策）	平成29年～	地域技術G主任主査(地域支援) 乙部 裕一 地域技術G研究主任 田澤 暁子
		技術普及課道南農試駐在（技術普及室） 上席普及指導員 池田 亮司

2. 試験研究・地域支援の内容

—— (1) 生産環境グループ（栽培環境） ——

I 経常研究

1 経常研究

(1) 環境保全型有機質資源施用基準の設定調査

1) 土壌機能実態モニタリング調査

（平成11年～継続、経常、中央・上川・十勝・根釧・北見と分担）

目的：北海道の耕地土壌の理化学性の実態、変化の方向および土壌管理のための留意点を明らかにし、適正な管理および土壌肥沃度の維持に役立てる。

(2) 農作物の病害虫診断試験

1) 生理障害診断

（昭和50年～継続、経常）

目的：農業改良普及センター、技術普及室などを通して依頼される農作物の生理障害などを迅速に診断し、適切な指示を行うことによって被害を最小限にとどめる。

2 経常（各部）研究

(1) クリーン農業総合推進事業

1) 地力窒素を考慮した夏秋どりトマトに対する施肥対応技術の開発

（平成29～32年、経常（各部））

目的：地力窒素が高いハウスで栽培される夏秋どりトマトについて、従来の硝酸態窒素に加え、熱水抽出性窒素を診断項目とする窒素施肥対応法を開発する。

II 道受託研究

1 道営農業農村整備事業等に係る土壌調査

（昭和40年～継続、道受託）

目的：道営農業農村整備事業における水田、畑地の土地改良事業の計画地区での適正な土地改良方策を実施するための指針を示す。

III 受託研究

1 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査）

（平成25～31年、国庫受託）

目的：全国の農耕地における土壌炭素の貯留量と営農管理による変動を明らかにする一環として、北海道の農耕地で調査を行う。

—— (2) 生産環境グループ (病虫) ——

I 経常研究

1 経常研究

(1) 農作物の病害虫診断試験

1) 突発及び新発生病害虫の診断試験

(昭和50年～継続、経常)

目的：突発または新発生病害虫の診断を行い、農作物の被害を最小限にとどめる。

2 経常 (各部) 研究

(1) クリーン農業総合推進事業

1) 露地圃場における光応答反応を利用した害虫管理技術の開発

(平成30～32年、経常 (各部)、中央農試と共同)

目的：露地栽培において、防除が困難とされる害虫に対して、光を利用した防除技術を開発する。

2) 転炉スラグを用いたpH矯正によるハウレンソウ萎凋病の被害軽減対策とリスク評価

(平成29～31年、経常 (各部)、生産環境グループ (裁環) と共同)

目的：ハウレンソウ萎凋病対策として、道内産転炉スラグでの被害軽減効果および持続効果を確認するとともに、施用に伴うリスクの有無を明らかにする。

II 道受託研究

1 病害虫発生予察調査

(1) 水稻病害虫発生予察定点調査

(2) 畑作病害虫発生予察定点調査

(3) 園芸作物病害虫発生予察定点調査

(昭和19年～継続、道受託)

目的：植物防疫法にもとづいて病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、病害虫防除所と連携して発生予察情報を関係機関に提供して病害虫防除の適正化を図る。

III 公募型研究

1 北海道地域における新規土壌還元消毒技術の開発

(平成26～30年、公募型、中央農研等と共同研究)

目的：北海道地域に適した低コストで処理作業が容易で深層まで消毒可能な新規資材を用いた土壌還元消毒技術を開発し、トマト株腐病、褐色根腐病に対す

る防除効果を検証する。また、北海道における新規土壌還元消毒の導入マニュアルを作成する。

2 北海道におけるイチゴ病害虫の新防除体系の実証

(平成29～30年、公募型、中央農研等と共同研究)

目的：紫外線 (UV-B) 照射技術を基幹としたイチゴ病害虫 (ハダニ類、うどんこ病) に対する新防除体系を北海道において実証し、導入マニュアルを作成する。

IV 受託研究

1 新農業資材の実用化試験

(昭和45年～継続、民間受託)

目的：新殺菌剤および殺虫剤の病害虫に対する防除効果および薬害を検討する。

—— (3) 地域技術 G (作物) ——

I 重点研究

1 保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立

(平成29～31年、重点)

目的：地域の気候特性に対応したハウスの保温装備と積雪対策、栽培可能な野菜品目と年間を通したハウスの利用技術を明らかにすることにより、全道広域で利用可能な新たなハウスの無加温周年利用技術を確立する。

II 経常研究

1 経常研究

(1) 水稻新品種育成試験

1) 障害に強く高品質で安定生産可能な北海道米品種の開発促進 (平成26～31年、経常)

ア 地域適応性試験 (奨励品種決定基本調査)

目的：水稻品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、育成系統の広域適応性を評価する。

イ 品種育成期間短縮のための大型水田温室を利用した世代促進

目的：水稻品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、品種育成期間を短縮させる。

2) 小豆地域適応性検定試験

(平成13年～継続、経常)

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定する。

(2) いちご地域適応性検定試験

(平成30年～平成32年、経常)

目的：花・野菜技術センター育成系統の道南地域における地域適応性を検討する。

(3) いちご新品種「ゆきララ」の安定出荷に向けた栽培法の確立

(平成30年～32年、経常)

目的：いちご新品種「ゆきララ」の普及に向け、安定生産のための栽培法を確立する。

2 経常（各部）研究

(1) 水稻新品種育成試験

1) 奨励（水稻）（水稻奨励品種決定現地調査）

(昭和29年～継続、経常（各部）)

目的：有望品種・系統の道南現地における適応性を明らかにし、奨励品種決定の資とする。

(2) 新優良品種普及促進事業

1) 水稻新品種普及促進事業

(昭和41年～継続、経常（各部）)

目的：新品種の普及を促進するため、優良品種候補の有望系統について、種子の増殖を行う。

(3) 奨励品種決定調査

1) 大豆奨励品種決定基本調査

(平成13年～継続、経常（各部）)

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定し、奨励品種決定の資とする。

2) 大豆奨励品種決定現地調査

(昭和29年～継続、経常（各部）)

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

3) 小豆奨励品種決定調査

(昭和46年～継続、経常（各部）)

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

(4) トマト単為結果性新品種の普及促進に向けた特性評価

(平成30～32年、経常（各部）)

目的：特定外来種であるセイヨウオオマルハナバチを必要としないトマト単為結果性品種の特性を明らかにし、その普及を促進する。

III 公募型研究

1 新たな簡易米飯評価法を用いた実需ニーズに対応した業務用多収品種の開発

(平成27年～31年、公募型（農食事業）)

目的：新たに開発した簡易米飯評価法を用いて、消費者が求める値頃感と美味しさを兼ね備えた、丼物と弁当用に適する業務用多収品種を早期に開発する。

2 地域ブランド強化のための高品質食用・加工用サツマイモ品種の開発

(平成27年～31年、公募型（農食事業）)

目的：北海道に適した、高品質な食用・加工用サツマイモ品種を開発する。

3 大納言小豆における刈り遅れによる雨害黒変粒等の外観品質低下条件の解明

(平成29～30年、公募（その他）)

目的：道南地域の大納言小豆品種において、刈り遅れによる外観品質の変化、特に雨害による黒変粒発生条件について明らかにすることにより、同地域の大納言小豆生産物の外観品質向上に寄与する。

4 環境ストレスによるベビーリーフの高品質化に関する国際連携研究

(平成30年～31年、公募型（ロバスト事業）)

目的：塩ストレスおよび低温ストレスによるベビーリーフの品質向上を図る。

IV 受託研究

1 新農業資材の実用化試験

(1) 水田除草剤実用化試験

(昭和34年～継続、民間受託)

目的：新除草剤による除草効果及び水稻の生育収量に及ぼす影響について検討し、今後の除草体系確立の資とする。

V 奨励研究

1 紫さつまいもの生育環境および貯蔵条件がアントシアニン含量・抽出効率に及ぼす影響の解析

(平成30年、奨励研究)

目的：北海道産紫さつまいもの色価・アントシアニン含量の優位性を示すとともに、冷凍保管の可能性に関する知見を得る。

V 共同研究

1 さつまいも非破壊品質測定技術の開発

(平成30年～32年、一般共同研究)

目的：光センサーを用いてさつまいも品質(乾物率)の非破壊測定技術を開発する。

(4) 地域技術G (地域支援)

I 経常研究

1 経常(各部)研究

(1) 革新的技術導入による地域支援

1) 檜山地域におけるハウス立茎アスパラガス栽培管理法の現地実証

(平成29～30年、経常(各部))

目的：檜山地域の経年化したハウス立茎アスパラガス栽培において、適切な収穫方法と栽培管理・適切な施肥と堆肥施用の休止による土壌養分の低減化により高収量が維持されることを実証し、地域に定着させる。

II 普及センターの支援要望課題に対する対応

1 水田土壌の窒素含量測定に係る支援

- ① 担当：地域技術G 乙部裕一
- ② 対象：渡島農業改良普及センター稲作担当者
- ③ 内容

稲作担当者会議で取り組まれた「作期中アンモニア態窒素の測定」に関して、水田土壌のアンモニア態窒素の測定方法を講義するとともに、現地圃場の土壌を測定した。

2 土壌物理性改善のための調査方法及び対策

- ① 担当：地域技術G 乙部裕一
- ① 対象：渡島農業改良普及センター、檜山農業改良普及センター
- ③ 内容

土壌断面調査の講義並びに土壌物理性測定の実習を行うとともに、知内町並びに上ノ国町の現地ほ場で土壌断面調査研修を実施した。

3 有機稲作栽培技術のマニュアル化

- ① 担当：地域技術G 乙部裕一
- ② 対象：檜山農業改良普及センター有機担当者
- ③ 内容

有機質肥料早期施肥技術定着化のため土壌中アンモニウム態窒素の測定を行うとともに、「有機稲作新規参入マニュアル(仮)」作成にあたり助言を行った。

4 基盤整備後の水稲(移植・直播)の安定生産

- ① 担当：地域技術G 乙部裕一
- ② 対象：檜山農業改良普及センター檜山北部支所
- ③ 内容

基盤整備後の水田土壌断面調査、生育調査を行うとともに、土壌中アンモニウム態窒素分析のOJT研修を実施した。

III 地域農業技術センター連絡会に対する支援

- ① 目的：道南地域における農業生産の振興を図るため、檜山管内の町立農業技術センターの実務者を中心にした農業関連技術の情報交換を支援する。
- ② 日時：平成30年5月9日(総会)
平成30年10月11日～12日(秋季研修会)
平成31年3月11日(役員会)

3. 地域農業技術支援会議の活動

I 設置趣旨

農政の大きな転換と農業・農村に対するニーズの多様化が進み、農業政策も地域の自主性や創意工夫を重視する方向へと変化し、地域課題も一層高度化・多様化している。このような中で、渡島総合振興局及び檜山振興局管内の農業及び農業関連産業が直面する課題に試験研究と普及組織、振興局行政が迅速かつ的確に対応するため、地域農業を支援する推進体制として、「渡島地域農業技術支援会議」、並びに「檜山地域農業技術支援会議」を設置している。

II 渡島地域農業技術支援会議

1 代表者会議

- ① 日時：平成30年6月22日、平成31年1月29日

- ② 場所：渡島農業改良普及センター
- ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター、ホクレン函館支所
- ④ 内容：プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告、運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況、次年度要望課題への対応指針、要望課題の把握方法等。

2 地域関係者会議

- ① 日時：平成31年2月28日
- ② 場所：北斗市農業振興センター
- ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター、管内市町、JA、ホクレン、指導農業士
- ④ 内容：プロジェクト課題の実施および取りまとめ報告、次年度要望課題への対応方針。

3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等

事務局会議3回、要望課題およびプロジェクトにかかる会議6回、プロジェクト調査3回。

4 新技術セミナー

- ① 日時：平成31年2月28日
- ② 場所：北斗市農業振興センター
- ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター、管内市町、JA、ホクレン、指導農業士等
- ④ 内容：平成31年普及奨励・指導参考技術の紹介。

Ⅲ 檜山地域農業技術支援会議

1 三者会議

- ① 日時：平成29年6月12日、平成30年1月29日
- ② 場所：檜山農業改良普及センター
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター、ホクレン函館支所
- ④ 内容：プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告、運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況、次年度要望課題への対応指針、要望課題の把握方法等。

2 地域関係者会議

- ① 日時：平成31年2月26日
- ② 場所：厚沢部町役場町民交流センター 「あゆみ」
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター、管内町、JA、指導農業士・農業士、ホクレン函館支所。
- ④ 内容：プロジェクト課題の実施報告およびとりまとめ報告、次年度要望課題への対応方針。

3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等

事務局会議3回、要望課題およびプロジェクトにかかる会議5回、プロジェクト調査2回。

4 檜山業務連会会議

- ① 日時：平成31年6月11日
- ② 場所：檜山農業改良普及センター
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター。
- ④ 内容：参集機関の業務実施計画の報告。

4. 平成31年普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項

I 普及推進事項

なし

II 指導参考事項

(1) トマト土壌病害に対する糖含有珪藻土および糖蜜吸着資材を用いた土壌還元消毒法

新規土壌還元消毒資材である糖含有珪藻土と糖蜜吸着資材を用いて、トマト褐色根腐病・株腐病を簡易に下層土まで消毒可能できる技術を開発した。

(2) 紫外光（UV-B）照射を利用したいちご病害虫の減農薬防除技術

いちご「すずあかね」の高設・夏秋どり栽培において紫外光（UV-B）照射と光反射シート等を利用したうどんこ病とハダニ類の発生を抑制する、減農薬栽培技術を実証した。

(3) 北海道産さつまいもの切り干しいもおよびペースト加工適性

切り干しおよびペースト加工で北海道産さつまいもは府県産と同等の加工適性を有した。切り干しいもとしての製品特性と収量性は「ほしこがね」が優れた。黄色品種におけるペースト加工品の食味官能評価の「総合」に及ぼす効果は「甘さ」が最も高かった。ペースト加工時の作業処理量はSサイズで劣った。

(4) 新農業資材

道南農試で試験を実施した殺虫剤11剤、殺菌剤4剤、水稲除草剤5剤を指導参考事項とした（薬剤名省略）。

5. 論文ならびに資料

(1) 研究論文

論文名	学会誌名	巻号数	ページ			著者名
北海道における飼料用トウモロコシの適正な作条基肥窒素量	日本土壤肥科学雑誌	89	384	—	389	八木哲生、唐星児、大塚省吾、酒井治、小野寺政行、三枝俊哉
北海道における春全量基肥を前提とした有機栽培タマネギの窒素施肥対応	日本土壤肥科学雑誌	89	213	—	219	櫻井道彦、坂口雅己、古館明洋
北海道南部地方で採集したオオタバコガに対する有効薬剤の検索	北日本病害虫研究会報	69	125	—	127	青木元彦
北海道の夏秋どりネギにおけるタマネギバエに対するクロラントラニプロール・チアメトキサム水和剤の効果	北日本病害虫研究会報	69	164	—	167	青木元彦
Characterization of Japanese <i>Rhizoctonia solani</i> AG-2-1 isolates using rDNA-ITS sequences, culture morphology, and growth temperature	J Gen Plant Pathol	84	387	—	394	三澤知央・黒瀬大介・森万菜実・戸田武
First report of <i>Stemphylium herbarum</i> and <i>S. lycopersici</i> causing carnation purple leaf spot in Japan	New Disease Reports	38	12	—		三澤知央・黒瀬大介・久保周子・植松清次
<i>Rhizoctonia solani</i> AG-4 HG-I によるケール苗立枯病(新称)	日本植物病理学会報	84	158	—	160	佐々木大介・芳賀一・松田健太郎・三澤知
北海道道央地域の各種園芸作物から分離した <i>Colletotrichum</i> 属菌の同定と諸特性	北日本病害虫研究会報	69	88	—	94	三澤知央・西脇由恵・佐藤豊三
ネギリゾクトニア葉鞘腐敗病に対する2種殺菌剤の防除効果	北日本病害虫研究会報	69	42	—	44	三澤知央・美濃健一
北海道における糖含有珪藻土を用いた土壤還元消毒のトマト褐色根腐病に対する防除効果	北日本病害虫研究会報	69	77	—	84	三澤知央・角野晶大・青木元彦・中保一浩
日本国内で初めて発生が確認されたトマトを加害するトマウロコタマバエ <i>Lasioptera</i> sp. (ハエ目:タマバエ科)	日本応用動物昆虫学会誌	62	193	—	197	橋本直樹・角野晶大・岩崎暁生・古館卓朗・西村景・高田昌広・キムワンギョウ・湯川淳一(九大)
北海道におけるサツマイモの収穫時期と貯蔵条件が品質に及ぼす影響	北海道園芸研究談話会報	52	58	—	59	高濱雅幹、尾崎洋人、中住晴彦
First report of binucleate <i>Rhizoctonia</i> AG U causing black scurf on potato tubers in Japan	New Disease Reports	38	24	—		三澤知央・黒瀬大介
Anastomosis group and subgroup identification of <i>Rhizoctonia solani</i> strains deposited in the NARO Genebank, Japan	J Gen Plant Pathol	85	受理済み	—		三澤知央・黒瀬大介
北海道におけ収量水準および窒素肥沃度に対応した飼料用トウモロコシの窒素施肥基準	日本土壤肥科学雑誌	90	22	—	31	八木哲生、唐星児、大塚省吾、松本武彦、酒井治、中辻敏朗、小野寺政行、三枝俊哉
コムギ眼紋病菌 <i>Oculimacula yallundae</i> , <i>Oculimacula acufiformis</i> の北海道における分布とDMI剤に対する感受性および防除効果	日本植物病理学会報	84	275	—	281	竹内 徹・角野晶大・田中文夫

(2) 口頭発表

発表名	発表学会等名	開催地	開催期間(月日)			発表者名
イネ、チモシーおよびキャベツから分離した <i>Rhizoctonia solani</i> AG-1 IA のキャベツへの病原性	平成30年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/18	—	10/19	三澤知央
ネギ萎凋病の発生実態	平成30年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/18	—	10/19	三澤知央・富澤ゆい子・奥村理
ネギ萎凋病に対する2種殺菌剤の防除効果	平成30年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/18	—	10/19	三澤知央
転炉スラグによる土壌pH矯正がホウレンソウの各種病害の発生に及ぼす影響	平成30年日本植物病理学会北海道部会	札幌市	10/19	—		角野晶大・小野寺政行・日笠裕治
SIP次世代農林水産業創造技術 いちご病害虫防除新技術について	アグリビジネス創出フェア	東京都	11/20	—	11/22	青木元彦

(続き)

冬季の土壤凍結深制御による畑地の理化学的改善と生産性向上	日本土壤肥料学会北海道支部大会	旭川市	11/29	-	11/29	小野寺政行、須田達也、荒木英晴、木村篤、草野裕子、下田星児、小南靖弘、広田知良、中辻敏朗
夏秋どりトマトにおける主茎硝酸濃度の特徴と栄養診断指標としての可能性	日本土壤肥料学会北海道支部大会	旭川市	11/29	-	11/29	坂口雅己、日笠裕治、小野寺政行
北海道におけるサツマイモの収穫時期と貯蔵条件が品質に及ぼす影響	北海道園芸研究談話会H30年研究発表会	札幌市	12/2	-		高濱雅幹、尾崎洋人、中住晴彦
極良食味系統「上育462号」を遺伝的背景とする「ゆきひかり」の染色体部分置換系統の作出と農業特性	日本育種学会作物学会北海道談話会	江別市	12/8			島貫 渉、高橋奈那、川原千佳、高半禮逸朗、西村 努、佐藤 毅、平山裕治、加藤清明
収穫遅れによる大納言小豆外観品質への影響	日本作物学会・日本育種学会北海道談話会H30講演会	江別市	12/8	-		田澤暁子
北海道で冬期間に収穫する数種葉菜類で発生したRhizoctonia菌による病害	第72回 北日本病害虫研究発表会	岩手県盛岡市	2/21	-	2/22	三澤知央、長浜恵、地子立
Colletotrichum nigrum Ellis & Halsted によるトマト炭疽病の発生(病原追加)	平成31年日本植物病理学会大会	茨城県つくば市	3/18	-	3/20	白井佳代、三澤知央、佐藤豊三
北海道の農耕地における土壤理化学的の推移	日本土壤肥料学会神奈川	藤沢市	8/29	-	8/31	中村隆一、塚本康貴、細淵幸雄、藤倉潤治、有田敬俊、坂口雅己、笛木伸彦、酒井治、奥村理
北海道の夏秋どりいちごにおける 紫外光(UV-B)と光反射シートを用いた病害虫防除法の実証	第72回北日本病害虫研究発表会	盛岡市	2/21	-	2/22	青木元彦、三澤知央
いちご病害虫防除新技術及び新規土壤還元消毒技術について	SIP次世代農林水産業創造技術研究成果発表会	東京都	2/27	-	2/27	青木元彦
近年の北海道渡島地方におけるダイズキタマバエの被害状況と防除時期の検討	第63回日本応用動物昆虫学会	茨城県つくば市	3/25	-	3/27	青木元彦・寺山徹・植松徹
再現試験による大納言小豆の雨害変質粒発生時期の解明	日本作物学会第247回講演会	茨城県つくば市	3/27	-	3/29	田澤暁子
低温苗立性に優れる水稲新品種「上育471号」の育成	日本育種学会第135回講演会	千葉市	3/15	-	3/17	平山 裕治、木内 均、西村 努、道満剛平、前川 利彦、佐藤 博一、佐藤 毅、沼尾 吉則、品田 博史、吉村 徹、粕谷雅志、尾崎 洋人、木下 雅文、菅原 彰、其田 達也、小倉 玲奈、林 和希、阿部 珠代、岩田 夏子
北海道のイネ品種系統の極早生性に関与する新たな遺伝子型の特定	日本育種学会第135回講演会	千葉市	3/15	-	3/17	島貫 渉、平山裕治、吉川晶子、高橋奈那、川原千佳、高半禮逸朗、佐藤 毅、加藤清明

(3) 専門雑誌、著書・資料

①雑誌

公表・成果名	雑誌名	号数	ページ			著者名
北海道水稲の良食味品種育成とその戦略 -「赤毛」から「ゆめぴりか」まで	「農業研究」(別冊)第6号 平成30年度日本農業研究所講演記録		151	-	200	佐藤 毅
土壤凍結深制御による畑地の生産性向上	ニューカントリー	4月号	22	-	23	小野寺政行
「雪割り」「雪踏み」で土壤凍結、畑が一気に改善	現代農業	10月号	220	-	225	小野寺政行
土壤凍結深制御による畑地の生産性向上	農家の友	11月号	46	-	48	小野寺政行
畑の生産力アップ！冬に土を凍らせる	アグリポート	16号	15	-	16	小野寺政行
スイートコーンの化学肥料5割削減栽培技術	農耕と園芸	9月号	12	-	16	日笠裕治
スイートコーンの化学肥料5割削減栽培技術	季刊誌「有機農研」	114号	4	-	5	日笠裕治
ニラ白斑葉枯病の防除	農業技術体系「野菜編」	追録第43号	449	-	455	三澤知央
ネギリゾトニア葉鞘腐敗病の発生と防除	土づくりとエコ農業	6-7月号	5	-	9	三澤知央
北海道におけるイネ紋枯病の薬剤防除対策	北農	85	216	-	219	三澤知央
北海道で発生した園芸作物の新病害・その24 ハクサイビシウム腐敗病	北農	85	325	-	328	三澤知央
ミニ情報	施設と園芸	184号		-		乙部裕一
暖房ナシ、真冬に葉菜類をつくらう	ニューカントリー	9月号	12	-	15	高濱雅幹
無加温ハウスを利用した葉菜類の冬季栽培	農家の友	9月号	44	-	46	高濱雅幹

(続き)

無加温ハウスを利用した葉菜類の冬季出荷技術	グリーンテクノ情報	Vol.14 No.3	11	—	14	高濱雅幹
豊富なビタミンB1で脳活動を協力的にサポート！ 大豆は骨粗しょう症も未然に防ぐ	壮快	8月号	86	—	87	加藤 淳
女性農業者が手塩にかけて育てた白小豆が老舗和菓子店の新製品に变身	農家の友	9月号	66	—	68	加藤 淳
平成30年度農業技術功労者表彰を受賞して	豆類時報	3月号				加藤 淳
北海道で発生した園芸作物の新病害・その25 ネギ白絹病	北農	85	2	—	4	三澤知央
「スイートコーン有機資材で代替し化学肥料を5割削減」	ニューカントリー	3月号	54	—	55	日笠裕治
単為結果性トマト 北海道の夏秋どりで安定した栽培が可能	ニューカントリー	4月号	50	—	51	中住晴彦
最新 農業技術野菜 Vol.11 特集 ネギ・ニラ・ホウレンソウの安定多収技術(ニラ白斑葉枯病の防除)	農文協	ISBN-10: 4540180576 ISBN-13: 978- 4540180576	101	—	107	三澤知央

②書籍

腎臓病が自分で治せる101のワザ(あずき茶の効果)	主婦の友社	ISBN978-4-07-431119-4	84	—	89	加藤 淳
おいしい北海道やさい	キクロス出版	ISBN978-4-434-24975-4	1	—	64	加藤 淳
酢大豆の効果(大豆の健康成分)	マキノ出版	ISBN978-4-8376-6508-3	30	—	31	加藤 淳
血圧を下げる名医のワザ(あずき水の効能と効果的な飲み方)	宝島社	ISBN978-4-8002-8857-8	44	—	45	加藤 淳
高血圧をピタッと治すコツとワザ(あずき茶の効果)	主婦の友インフォス	ISBN978-4-07-433590-9	88	—	90	加藤 淳
ネギ大事典(ニラ白斑葉枯病の防除)	農文協	ISBN 97845401816 41	599	—	605	三澤知央
タマネギ大事典(春まきタマネギ栽培における窒素施肥)	農文協	ISBN 97845401816 58	279	—	287	小野寺政行
タマネギ大事典(春まきタマネギ栽培における土壌凍結深の制御と効果)	農文協	ISBN 97845401816 58	289	—	296	小野寺政行

その他

エッセー「おいしい北海道」	広報ほくれん 11月号	21		11月1日		加藤 淳
おまめのはなし	小学生向け学習読本(日本豆類協会)			3月1日		加藤 淳
有機物の利活用	土づくり技術情報「総括編」	18-29		2月		小野寺政行
土壌診断による効果的な土づくり	土づくり技術情報「総括編」	30-39		2月		日笠裕治、櫻井道彦(中央裁環)
<コラム>土壌凍結制御技術による畑地の生産性向上	土づくり技術情報「総括編」	57		2月		小野寺政行
野菜畑土壌の特性と土層改良	土づくり技術情報「総括編」	106-112		2月		坂口雅己
土壌改良資材と育苗培土の利用法	土づくり技術情報「総括編」	128-137		2月		小野寺政行
単為結果性トマトの特徴	有機農研 113号		5月6日		7月	中住晴彦

4) 新聞記事

公表成果名	新聞名	発行日	著者名
冬に土を凍らせて土壌理化学性改善	農業共済新聞	4月4日	小野寺政行
北海道でのさつまいも苗増殖法～自家増殖で収益改善～	農業共済新聞	12月1日	高濱雅幹
土壌凍結深制御 作物の生産力アップ	日本農業新聞	1月30日	小野寺政行
冬の営農塾 無加温ハウスで野菜栽培	日本農業新聞	2月14日	高濱雅幹
サツマイモ栽培 道南でも	北海道新聞	2月23日	高濱雅幹

6. 印刷刊行物

- (1) 平成29年度 北海道立総合研究機構道南農業試験 場年報 (平成30年9月、41頁、HP公開)
- (2) 第21回道南農業新技術発表会要旨 (平成31年2月、15頁、150部)

7. 技術指導・技術相談

(1) 技術指導

発表、講演等の名称	講師氏名	月日	依頼元	内容
基盤整備後の水稲(移植・直播)の安定生産	乙部裕一	4月18日	檜山北部基盤強化プロジェクト	土壌断面調査と理化学性分析試料採取方法の講義と実習を行った
土壌物理性改善に向けた土壌三相分布の調査	乙部裕一	6月5日	檜山南部地区営農推進連絡協議会	土壌断面調査と理化学性分析試料採取方法の講義と実習を行った
ニラ栽培における主要病害・その診断と防除	三澤知央	6月9日	知内町ニラ生産組合	ニラ栽培における主要病害・その診断と防除について講演した
北海道産小豆の健康機能性と付加価値向上について	加藤 淳	6月20日	函館倶楽部	函館市内の医療関係者・会社経営者向けに、小豆の健康機能性について講演した
道南の豆、食べて美味しく健康に！	加藤 淳	7月10日	(株)もりもと	函館市内の一般市民向けに道南産豆類の健康機能性について講演した
北海道における小豆の品種改良と健康機能性の評価	加藤 淳	7月10日	中国 吉林省白城市農業科学院	吉林省からの招聘で、北海道の小豆育種と健康機能性について講演した
北日本・北陸地域におけるネギ黄色斑紋病斑発生回避試験について	坂口雅己	8月2日	農研機構	第2回ネギの黄色斑紋病斑対策に関する現地検討会において、北海道における試験設計と計画について話題提供した。
顕微鏡を活用した病害の診断方法	三澤知央	8月22日	渡島農業改良普及センター	顕微鏡を活用した病害の診断方法について講演した
パーティシリウム菌の特徴と防除対策	角野晶大	8月22日	渡島農業改良普及センター	園芸・畑作担当者病害診断研修として抗議した。
「食」で人を繋ぐまちづくりフォーラム	加藤 淳	8月25日	北海道大野農業高校	北斗市内の一般市民・大野農高PTA向けのフォーラムでコーディネートを務めた
Rhizoctoniaの診断	三澤知央	8月30日	日本植物病理学会 病害診断教育プログラム	Rhizoctoniaの診断に関する講演と実習を行った
北海道水稲の良食味品種育成とその戦略 -「赤毛」から「ゆめびりか」まで	佐藤 毅	9月12日	(公財)日本農業研究所	北海道水稲の品種改良について日本農業研究所で講演した
北海道水稲の良食味品種育成とその戦略	佐藤 毅	9月27日	中国 黒竜江省農業科学院	科学院の招聘で北海道水稲の品種改良について講演した
北海道水稲の良食味品種育成とその戦略	佐藤 毅	9月28日	中国 黒竜江省農業科学院 牡丹江農業科学研究院	科学院の招聘で北海道水稲の品種改良について講演した
やっかいどう米がおいしい北海道米になるまでの軌跡	佐藤 毅	10月18日	秋田銀行札幌支店	あきぎん経友会主催の講演会で北海道水稲の品種改良について講演した
北海道の農業と植物病害の研究	三澤知央	10月23日	北斗市立上磯中学校	北海道農業の特徴と病害研究について講演した
研究成果の発表方法および学位取得について	三澤知央	11月2日	農業研究本部 新人研修	研究成果の発表方法および学位取得について講演した
作期中土壌アンモニア態窒素測定	乙部裕一	8月3日	渡島農業改良普及センター	水田土壌のアンモニア態窒素分析の講義と実習を行った
土壌物理性改善のための調査方法及び対策	乙部裕一	10月17日	渡島農業改良普及センター 知内町ニラ生産部会	土壌断面調査と理化学性分析試料採取方法の講義と実習を行った
土壌物理性改善に向けた土壌三相分布及び土壌微生物活性の調査	乙部裕一	9月12日	渡島農業改良普及センター 檜山農業改良普及センター	土壌断面調査と理化学性分析試料採取方法の講義と実習を行った

(続き)

道南における新野菜の取り組みについて	高濱雅幹	11月10日	函館青果物商業協同組合	試験場で取り組んでいる新野菜として、冬季葉菜類、さつまいも、単為結果性トマトを説明した。
北海道フードマイスター検定受験対策セミナー「食料生産事情」	加藤 淳	9月22日	札幌商工会議所	第27回北海道フードマイスター検定の受験対策セミナーにおいて、「食料生産事情」について講義した。
大豆のはたらきin札幌「食資源としての北海道産大豆の魅力」	加藤 淳	9月29日	不二たん白研究振興財団	札幌市内の一般市民や栄養士向けに道産大豆の魅力について講演した
北海道産ジャガイモの魅力について	加藤 淳	10月7日	野菜ソムリエコミュニティ函館	函館市内の一般市民・野菜関係者向けに道産ジャガイモの魅力について講演した
豆の日シンポジウム2018「小さな豆から大きな健康」	加藤 淳	10月10日	日本豆類協会	東京都内の一般市民向けに豆の栄養性や健康機能性等についてパネルディスカッションで解説した
見直そう、豆の力と豆料理	加藤 淳	10月12日	北海道豆類振興会	帯広市内の一般市民向けに豆の健康機能性等について講演した
北海道産豆類の魅力 ～豆を食べて美しく健康に～	加藤 淳	10月13日	北海道栄養士会	道内の栄養士向けに豆の栄養性・健康機能性等について講演した
ヘルシー豆教室	加藤 淳	10月13日	農業・農村ふれあい実行委員会	札幌市内の親子向けに豆の健康機能性について解説した
ためになる野菜のお話し	加藤 淳	11月4日	(株)エンタープライズ	函館市周辺の一般市民向けに、野菜の美味しさや機能性について講演した
北海道産豆類の魅力について	加藤 淳	12月10日	新函館農協厚沢部支店	南檜山地区担い手養成講座の一環として、豆類の栄養性・機能性について講演した
豆類の健康機能性と気候変動が及ぼす影響について	加藤 淳	1月19日	美瑛町農協	美瑛町農協豆作部会の研修として、豆類の健康性と地球温暖化による影響について講演した
北海道フードマイスター検定受験対策セミナー「食料生産事情」	加藤 淳	1月20日	札幌商工会議所	第28回北海道フードマイスター検定の受験対策セミナーにおいて、「食料生産事情」について講義した
道南農業のこれからと地球温暖化が及ぼす影響	加藤 淳	2月6日	渡島女性農業委員の会	道南農業のこれからと地球温暖化による影響について講演した
北海道フードマイスター資格更新セミナー「クリーン農業・有機農業の取組みについて」	加藤 淳	2月9日	札幌商工会議所	北海道フードマイスター資格所有者の更新時セミナーにおいて、北海道のクリーン農業・有機農業について講義した
北海道フードマイスター検定上級編受験対策セミナー「畑作物(豆類)」	加藤 淳	2月16日	札幌商工会議所	第11回北海道フードマイスター検定上級編の受験対策セミナーにおいて、「畑作物(豆類)」について講義した
小豆・いんげん豆の健康機能性を知る	加藤 淳	2月22日	全国和菓子協会	全国和菓子協会の加盟者を対象に、豆類の機能性について講演した
道南農業のこれからと気候変動が及ぼす影響	加藤 淳	2月28日	渡島総合振興局	渡島管内の農業関係者向けに、道南農業のこれからと地球温暖化による影響について講演した
地域農産物の魅力と付加価値向上	加藤 淳	3月4日	渡島農業改良普及センター	普及職員の総合研修として、地域農産物の品質と付加価値向上策について講演した
北海道産豆類の魅力と付加価値向上	加藤 淳	3月12日	檜山農業改良普及センター	普及職員の総合研修として、豆類の品質と付加価値向上策について講演した
北海道産豆類の魅力	加藤 淳	3月20日	道南WAKUWAKU協議会	七飯町周辺の一般市民向けに豆類の栄養性・機能性等について講演した
畑作・野菜の病害診断と防除対策	三澤知央	12月11日	南檜山地区担い手養成講座	野菜・畑作物病害の診断と防除について講演した。
北日本・北陸地域におけるネギ黄色斑紋病発生回避試験について	坂口雅己	12月3日	農研機構	ネギの黄色斑紋病対策に関する打合せ会において、北海道における試験結果について話題提供した。
担い手養成講座(かぼちゃ、冬野菜)	高濱雅幹	1月18日	新函館農協厚沢部支店	かぼちゃの栽培方法について講義した後、場内の冬季無加温ハウスで葉菜類栽培試験の概要を説明した。
馬鈴しょのカルシウム資材導入・排水対策等	小野寺政行	1月25日	南檜山地区担い手養成講座	馬鈴しょに対するカルシウム資材の施用効果、畑地の排水対策等について講演した。
平成30年度普及指導員普及奨励新技術研修	青木元彦	2月20日	渡島総合振興局	いちごの紫外光の成績、大豆のカムシ類に関する成績について説明した。
平成30年度普及指導員普及奨励新技術研修	三澤知央	2月20日	渡島総合振興局	新規土壌還元消毒、蒸気催芽における食酢を使用した細菌病防除、発生に鑑み注意すべき病害虫の成績について説明した。
有機栽培に使える害虫防除技術について	青木元彦	3月12日	森町環境保全営農協議会	有機栽培に使える害虫防除技術について説明する。

(2) 技術相談

項 目	件 数
電話・メール・公開デー相談コーナーによるもの	183件 内訳 電話68件、メール52件、メール後再対応（電話か来場）5件、来場58
病虫害診断・生理障害診断(分析等)に基づくもの	41件 内訳 診断別：病害32件、虫害5件（11%）、生理障害 2件、その他不明2件（26%） 作目別：野菜14件、畑作24件、花き2件、水稻1件

IV その他の活動

1. 職員研修

(2重線の上段は総務関係で、下部は研究、発表した学会は除く)

受講者	研 修 名	期 間	場 所
数藤 磯次	新任主幹級研修	4.19～4.20	札幌市
岡 めぐみ	平成30年度会計制度研修	4.25～4.26	道総研プラザ
岡 めぐみ	新任総務担当者研修	5.17～5.18	道総研プラザ
岡 めぐみ	道総研情報ネットワークシステム説明会	6.18	道総研プラザ
数藤 磯次	セクシャルハラスメント研修	7.24	場内(e-ラーニング)
岡 めぐみ	セクシャルハラスメント研修	7.26	場内(e-ラーニング)
加藤 淳 佐藤 毅 中住 晴彦 数藤 磯次	メンタルヘルスセミナー	8.21	渡島総合振興局
加藤 淳 中住 晴彦	ナイスライフセミナー	8.30	檜山振興局
佐藤 毅 数藤 磯次	内部統制体制の総点検に係わる研修会	11.20	道総研プラザ
加藤 淳 佐藤 毅 数藤 磯次	フレックス制説明会	12.3	道総研プラザ
中住 晴彦	いちご「ゆきララ」フィールドセミナー	4.22	滝川市
加藤 淳 佐藤 毅	工業技術センター研究成果発表会	5.17	函館市
小野寺政行	新任研究主幹研修	6.1～6.2	道総研プラザ
坂口 雅己	道総研情報ネットワークシステム説明会	6.18	道総研プラザ
佐々木盛久 竹内達哉	国際農業機械展	7.11～7.12	帯広市
田澤 暁子	大豆研究会	7.24～7.26	帯広市
小野寺政行	農業研究本部新任研究主幹研修	8.20～8.21	道総研プラザ
加藤 淳	日本食品科学工学会第65回大会	8.22～8.24	仙台市
順西奈緒	採用3年目職員研修	8.27-8.29	帯広市、芽室町

(続き)

加藤 淳 佐藤 毅 中住 晴彦 高濱 雅幹	さつまいも懇話会現地見学会	8.28	八雲町、函館市
順西 奈緒	支援業務研修	9.4～9.8	北見農試
青木 元彦	新任主査研修	9.11～9.13	道総研プラザ
中住 晴彦 乙部裕一	道南NATEC秋季研修会	10.11～10.12	長沼町
加藤 淳	ビジネスEXPO	11.9	札幌市
坂口 雅己 日笠 裕治	スマート農業セミナー	11.9	札幌市
小野寺 政行 角野 晶大	青森県産業技術センター農林総合研究所シンポジウム	11.13	弘前市
佐藤 毅 中住 晴彦 乙部 裕一	檜山農業改良普及センター職場研修	11.15	江差町
青木元彦	アグリビジネスフェア2018	11.20～11.21	東京都 国際展示場
加藤 淳 日笠 裕治 小野寺 政行 坂口 雅己	日本土壌肥料学会北海道支部大会シンポジウム	11.29	旭川市
高濱 雅幹	いも類研究会	12.5～12.7	鹿児島市
高濱 雅幹	マッチングフェア	11.28～11.29	東京都
中住 晴彦	北海道園芸研究談話会	12.1～12.3	札幌市
加藤 淳	日本食品科学工学会北海道支部大会	12.2～12.3	札幌市
佐藤 毅 中住 晴彦 乙部裕一	檜山農業改良普及センター職場研修	11.15	江差町
佐藤 毅	北海道産学官プラットフォーム@函館	1.9	函館市
加藤 淳 佐藤 毅 中住 晴彦	NATEC研究交流会	2.20	かでの2.7
加藤 淳 佐藤 毅 中住 晴彦	農業新技術発表会(全道)	2.21	かでの2.7
佐藤 毅 狩野 康弘	渡島スマート農業推進セミナー	2.22	八雲町
加藤 淳 佐藤 毅 中住 晴彦 乙部 裕一 池田 亮司 狩野 康弘	道南新技術セミナー	2.23	北斗市
加藤 淳 乙部 裕一	檜山農業改良普及センター総合研修会	3.12	江差町

2. 研修の受け入れ

研 修 名	受入月日	人数	研修対象	内容
大野農業高等学校 農業経営者育成研修	9月14日	3	大野農業高等 学校 3 年生	高校生に、農業試験場の概要を説明した

3. 参 観

参観者数

(単位：名)

参観項目	平成29年									平成30年			計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1月	2	3	
一 般			21	19	271	4	9	29					353
水 稻				28	24		5		48				105
野 菜			21		40		16		1				78
栽培環境 病 虫													
計			42	47	335	4	30	29	49				536

(参観件数計17件、8月は農試公開デーの263名を含む)

4. 主催事業等

(1) 第24回農試公開デー

①日時：平成30年8月9日(木) 13～16時、参加者263名

②内容：ア)見学会：ユリの木、花壇、水稻展示圃、水稻世代促進温室、サツマイモ、土の観察など
イ)パネル)新しい技術の紹介、林試水試の紹介、体験)苗当てクイズ、土の吸着能力 ウ)相談コーナー、家庭菜園・作物栽培、肥料、病虫害診断 エ)試食コーナー：冷やし汁粉、トマトの食べ比べ オ)農業機械展示コーナー、カ)ミニミニセミナー：水稻、小豆 解説後試食、キ)大野農業高校の紹介、生産物の販売
ク)林試道南支場の出展：トートバック作成

(2) 研究成果発表会（道南農試主催、*檜山地域農業技術支援会議主催）

名 称	開催地 日時	参加 者数	内 容
第21回道南農業新 技術発表会	厚沢部町役 場町民交流 センター あ ゆみ 平成31年2月 26日(火) 13:00～16:00	60	○新技術紹介： ・深い層まで簡単に消毒できる新しい土壌消毒法 ・加工しても美味しい、北海道産さつまいも ・箱を減らして省力化！ 密播中苗で米作り ・紫外光(UV-B)を用いたいちごの新しい病害虫防除法 ○ 檜山農業改良普及センターの活動報告 ～秋まき小麦における葉枯症状の発生状況調査～
渡島地域農業技術 支援会議 平成30年度新技術 セミナー	北斗市農業 振興センター 平成31年2月 28日(火) 13:00～16:00	41	○特別講演：道南農業のこれからと気候変動の及ぼす影響 ○新技術紹介： ・平成30年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫 ・紫外光(UV-B)を用いたいちごの新しい病害虫防除法 ・箱を減らして省力化！ 密播中苗で米作り ・発泡箱でトマト作り！ 簡易養液栽培法のポイントは？ ・加工しても美味しい、北海道産さつまいも

(3) 普及組織及び振興局との連絡会議等共催および参加

主 催 者	区 分	回数	会 議 名	回数	開 催 日					
渡島地域農業技術支援会議	諸会議	8	関係者会議	1	2/28					
			代表者会議	2	6/22	1/29				
			事務局会議	3	5/21	9/28	12/17			
			要望課題調査	1	1/18					
			新技術セミナー	1	2/28					
	プロジェクト課題 (斜体は調査)	3	トマト褐色根腐	3	5/7	5/28	7/20	1/29		
	要望課題対応	5	ニラ葉先枯れ	5	12/7	12/19	12/28	2/13	3/6	
檜山地域農業技術支援会議	諸会議	9	関係者会議	1	2/26					
			三者会議	2	6/11	1/31				
			事務局会議	3	5/2	9/30	12/20			
			要望課題調査	2	10/30	11/2				
			檜山業務連携会議	1	6/11					
	プロジェクト課題 (斜体は調査)	4	春よ恋	4	5/29	6/13	8/2	11/14	2/22	
技術普及室		1	渡島業務連携会議	1	6/22					
道南地域農業技術センター連 絡会(NATEC)	諸会議	2	総会	1	5/9					
			役員会	1	3/11					
	研修会	1	秋期研修会	1	10/11～12					
渡島農業改良普及センター	部門別・総合研修	7	稲作担当者会議	6	5/1	7/24	8/3	11/14	2/15	3/4
			総合研修	1	3/4					
檜山農業改良普及センター	部門別・総合研修 (斜体は調査)	7	稲作担当者会議	1	5/18	11/15	12/3	12/10	3/12	
			檜山北部基盤整備プロジェクト	5	4/12	4/18	6/7	7/3	3/13	
			総合研修	1	3/12					

5. マスコミ対応

取材機関	取材内容	対応者	放映、掲載
函館新聞	北海道科学技術奨励賞	三澤知央(道南環境)	3月4日
農業共済新聞	冬に土を凍らせて土壌理化学性改善	小野寺政行(道南環境)	4月4日
日本農業新聞	LEDで防除開発へ(光を使い加害抑制検証)	道南農試	5月5日
日本農業新聞	冬の葉物野菜 無加温ハウス栽培 マニュアルを発行	高濱雅幹(道南農試)	5月8日
函館新聞	函館真昆布だし関連商品や軽石干し 研究理解深める(製品に対するコメント)	道南農試(取材記事)	5月18日
函館新聞	「あずき博士」道南豆語る 7日に1周年記念講演会 もりもと函館店	加藤淳(道南農試)	6月29日
函館新聞	豆の栄養価や効果解説 もりもと函館店1周年	加藤淳(道南農試)	7月10日
北海道新聞	道南産豆食べ健康になって 農試場長が講演	加藤淳(道南農試)	7月13日
函館新聞	試験水稻 黄金色に輝く(道南農試で稲刈り)	道南農試(取材記事)	7月31日
北海道新聞	品種改良目指し温室で稲の収穫	尾崎洋人(道南地域(取材記事))	8月1日
函館新聞	農業 驚きいっぱい 道南農試公開デーに270人	加藤淳(道南農試(取材記事))	8月10日
北海道新聞(夕刊)	イモ掘り楽しいね イネの栽培見学も(公開デー)	道南農試	8月13日
日本農業新聞	最多の来場者 農高生販売も(公開デー)	加藤淳(道南農試(取材記事))	8月15日
北海道新聞	土の吸着力を実験 はこだて国際科学祭	小野寺政行(道南農試(取材記事))	8月19日
日本農業新聞	「食」生かした町作り探る 大野農高でフォーラム	加藤淳(道南農試(取材記事))	9月3日
函館新聞	道南農試・三澤さん 国内20年ぶり リゾクトニア菌新グループ発見 国際誌掲載、表紙採用へ	三澤知央(道南農試)	9月20日
北海道新聞(夕刊)	道産ジャガイモ 食べて聞いて 魅力再発見 7日 函館でフォーラム	加藤淳(道南農試(取材記事))	10月3日
函館新聞	ジャガイモの魅力発信 野菜ソムリエコミュニティ 講演や試食会「ぜひ来場を」	加藤淳(道南農試(取材記事))	10月4日
函館新聞	ジャガイモの魅力発信 Gスクエアでフォーラム	加藤淳(道南農試(取材記事))	10月8日
日本農業新聞	魅力 次代につなごう 函館でジャガイモ・フォーラム	加藤淳(道南農試(取材記事))	10月10日
北海道新聞(夕刊)	ジャガイモ 魅力再発見 函館でフォーラム 講演や料理試食	加藤淳(道南農試(取材記事))	10月18日
函館新聞	野菜の豆値意識紹介 加藤さん、そらさん トークショー 「食べて健康的に暮らして」	加藤淳(道南農試(取材記事))	11月5日
農業共済新聞	北海道でのさつまいも苗増殖法～自家増殖で収益改善～	高濱雅幹(道南農試)	12月1日
函館新聞	冬の稲刈り 輝く黄金色 品種開発へ 道南農試	尾崎洋人(道南農試(取材記事))	12月7日
日本農業新聞	北海道でサツマイモ 温暖化、マルチ普及 栽培容易に 加熱して甘み強く ペースト加工も	高濱雅幹(道南農試)	12月14日
日本農業新聞	土壌凍結深制御 作物の生産力アップ	小野寺政行(道南環境)	1月30日
日本農業新聞	冬の営農塾 無加温ハウスで野菜栽培	高濱雅幹(道南農試)	2月14日
北海道新聞	サツマイモ栽培 道南でも	高濱雅幹(道南農試)	2月23日
函館新聞	密播中苗で水稻栽培省力化 厚沢部で農業新技術発表会	道南農試	2月27日
北海道新聞(夕刊)	道南農業 10年後の姿は 北斗でセミナー	道南農試	3月6日
日本農業新聞	道南農試 トマト新土壌消毒紹介	道南農試	3月12日
函館新聞	道南農業新技術発表会 研究成果 営農活動の糧に	道南農試	3月17日

(続き)

FMいるか	聞きたい、知りたい 4月	佐藤 毅	4月20日
FMいるか	聞きたい、知りたい 5月	加藤 淳	5月18日
FMいるか	聞きたい、知りたい 6月	高濱雅幹	6月15日
FMいるか	人ネットワーク	加藤 淳	7月4日
FMいるか	聞きたい、知りたい 7月	小野寺政行	7月20日
FMいるか	聞きたい、知りたい 8月	坂口 雅己	8月17日
FMいるか	人ネットワーク	加藤 淳	10月31日
FMいるか	聞きたい、知りたい 9月	乙部裕一	9月21日
FMいるか	聞きたい、知りたい 10月	尾崎 洋人	10月19日
STV	北海道のさつまいもについて	高濱雅幹	10月25日
FMいるか	聞きたい、知りたい 11月	三澤 知央	11月16日
FMいるか	聞きたい、知りたい 12月	青木 元彦	12月21日
FMいるか	聞きたい、知りたい 1月	中住 晴彦	1月18日
FMいるか	聞きたい、知りたい 2月	佐藤 毅	2月15日
FMいるか	聞きたい、知りたい 3月	加藤 淳	3月15日

6. 委員会活動

(1) 情報システム委員会

- ① 構成：委員長；坂口雅己（生産環境グループ）、委員；田澤暁子（地域技術グループ）、三澤知央（生産環境グループ）、順西奈緒（生産環境グループ）、石黒一幸（総務課）、狩野康弘（技術普及室）
- ② 活動：イントラネットの管理およびホームページの修正および更新（計20回）を行った。主な更新事項は以下のとおり。

- ア 道南農試主催行事等の案内
- イ 道南農試主催行事等の開催結果
- ウ 作況報告
- エ 研究成果の公表

(2) 施設管理委員会

- ① 構成：委員長；中住晴彦（地域技術グループ研究主幹）、委員；小野寺政行（生産環境グループ研究主幹）、数藤磯次（総務課長）、佐々木光浩（総務課主査（総務））、尾崎洋人（地域技術グループ主査）、青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））、佐々木盛久（生産環境グループ）
- ② 活動：第1回は平成30年5月14日に開催し、施設整備・備品整備等について検討した。第2回は平成30年6月6日に開催し、備品整備等について検討した。第3回は平成31年1月10日に開催し、要望する施設の順位付けについて検討した。

(3) 業務委員会

- ① 構成：委員長；小野寺政行（生産環境グループ研究主幹）、委員；竹内達也（生産環境グループ）、尾崎洋人（地域技術グループ）、坂口雅己（生産環境グループ）、角野晶大（生産環境グループ）
- ② 活動：4月から10月の毎週木曜日に業務委員会を開催し、作業計画の立案及び人員の配置等について協議した。

(4) 安全衛生会議

- ① 構成：議長：加藤 淳（場長） 議員：数藤磯次（総務課長）、佐々木光浩（主査（総務））、小野寺政行（研究主幹）、乙部裕一（労組支部長）、尾崎洋一（労組書記長）、竹内達哉（労組推薦）
- ② 活動：平成30年5月10日に安全衛生会議を開催し、職場安全衛生実施計画を決定した。実施計画に基づき、各取組みを実施した。

(5) 図書委員会

- ① 構成：委員長；青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））、委員：石黒一幸（総務課）、順西奈緒（生産環境グループ）、田澤暁子（地域技術グループ）、田澤暁子（地域技術グループ）、日笠裕治（生産環境グループ）、狩野康弘（協力、技術普及室主任普及指導員）
- ② 活動：集報等の希望配布のとりまとめ、受け入れ図書・資料の整理を行った。

(6) 研修・参観案内委員会

- ① 構成：委員長；小野寺政行（生産環境グループ研究主幹）、委員；岡めぐみ（総務課）、佐々木盛久（生産環境グループ）、中住晴彦（地域技術グループ）、乙部裕一（地域技術グループ主任主査（地域支援））、池田亮司（協力、技術普及室主任普及指導員）
- ② 活動：平成30年6月6日に参観案内資料（圃場配置図、試験概要など）をもとに場員、振興局及び普及センター職員が参加して、参観案内リハーサルを実施した。

(7) 土壌病害虫場内対策検討委員会

- ① 構成：委員長；佐藤毅（研究部長）、委員；数藤磯次（総務課長）、小野寺政行（生産環境グループ研究主幹）、中住晴彦（地域技術グループ研究主幹）、青木元彦（主査（病虫））、竹内達哉（（生産環境グループ主任））、ワザハバー加藤淳（場長）
- ② 活動：9/19に委員会を開催。指針、隔離圃場、隔離圃場管理マニュアルなどを改定し、トマトの栽培管理に関する注意事項を別紙5として追加し、庁内会議で承認された。

(8) 場代表連絡員等

1) 情報システム運営委員

- ① 委員：坂口雅己（生産環境グループ主査（栽培環境））
- ② 活動：情報システムの運営管理のために、道総研本部および農業研究本部との連絡調整、場内IPアドレスの管理、情報ネットワークシステム統合にともなう移行対応等の業務を行った。

2) 植物遺伝資源連絡員

- ① 構成：委員：尾崎洋人（地域技術グループ主査（作物））
- ② 遺伝資源の保存や調査に関する7つの事項が報告され、了承された。植物遺伝資源提供要領の運用と育成系統提供要領について協議された。その他として「遺伝資源部保有遺伝資源の検索について」と「水稻、麦類および豆類優良品種のDNAマーカーによる品種判別について」の2点、情報提供があった。

3) 北農連絡員

- ① 委員：坂口雅己（生産環境グループ主査（栽培環境））
- ② 活動：北農の発行などについて、北農会との連絡調整を行った。

4) 図書連絡委員

- ① 委員：青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））
- ② 活動：道総研農試報告、集報、資料について、配布希望のとりまとめを行った。

5) 作況気象連絡委員

- ① 委員：尾崎洋人（地域技術グループ主査（作物））
- ② 活動：農試の気象および水稻の作況のとりまとめを行った。

(9) 外部委員会等への参加

1) 檜山振興局農業農村整備事業環境情報協議会

- ① 委員：佐藤毅（研究部長）
- ② 活動：平成30年7月18日に厚沢部町で標記協議会が開催され、これに出席した。

7. 場内研修

研修等名	主な内容	開催日	受講者数
ハラスメントに関する職場研修	ハラスメント防止等に関する規程及び指針の説明	5.15	12
ハラスメントに関する職場研修	ハラスメント防止等に関する規程及び指針の説明	5.16	9
契約職員研修	契約職員に休暇処理手続き、給与明細の見方、農作業事故防止等の説明	5.22	20
ハラスメントに関する職場研修	ハラスメント防止等に関する規程及び指針の説明	5.22	14
救急講習	消防署から講師を招いて、AEDの使用方法などの緊急時対応を受講	11.14	20
学会予演会(育種学会作物学会北海道談話会)	1講演、田澤暁子	12.4	15
道南農業新技術発表会予演会	5講演、高濱雅幹、三澤知央、尾崎洋人、古館卓朗(檜山普及センター)	2.11	15
学会予演会(作物学会、応用動物昆虫学会)	2講演、田澤暁子、青木元彦	3.19	10

8. 表彰・資格

受賞者氏名	表彰事項	受賞年月日
加藤 淳	農業技術功労者賞表彰 「豆類の加工特性・健康機能性の評価と非破壊評価技術の開発」	平成30年12月14日
藤野賢治、西村努、木内均 平山裕治、佐藤毅	日本育種学会論文賞 「Phenotypic changes during 100-year rice breeding programs in Hokkaido」	平成30年3月24日

9. 外部委員会等への参加

(1) 学会役員・委員

名 称	機関名	氏名
日本土壌肥料学会 代議員	日本土壌肥料学会	加藤 淳
日本食品科学工学会 代議員	日本食品科学工学会	加藤 淳
北海道フードマイスター検定 運営委員会 副委員長	札幌商工会議所	加藤 淳
日本土壌肥料学会代議員	日本土壌肥料学会	日笠裕治
イノベーション創出強化研究推進事業」評議委員	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構	佐藤 毅
「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」及び「スマート農業加速化実証プロジェクト」課題審査委員	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会	佐藤 毅
渡島スマートアグリ事務局委員	渡島スマートアグリ事務局(渡島総合振興局)	佐藤 毅
北海道科学技術審議会 函館地域懇談会委員	北海道経済部産業振興局科学技術振興室	佐藤 毅
檜山振興局道営農業農村整備事業環境情報協議会委員	檜山振興局	佐藤 毅
北斗市農業振興対策協議会委員	北斗市	佐藤 毅
Journal of Plant Studies 編集委員	Canadian center of science and education	三澤知央
生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)世話人	生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)	三澤知央
日本植物病理学会 植物病害診断研究会 幹事	日本植物病理学会	三澤知央

(2) 技術審査

審査名称等	相手方	月日	担当者	審査内容
論文査読	植物病理学会報	4月	三澤 知央	コムギの病害に関する論文を審査した
論文査読	JGPP	4月	三澤 知央	ジャガイモの病害に関する論文を審査した
論文査読	JGPP	6月	三澤 知央	メロン病害に関する論文を審査した
論文査読	北日本病虫研究報	6月	三澤 知央	大豆病害に関する論文を審査した
論文査読	JGPP	7月	三澤 知央	リンゴ病害に関する論文を審査した
論文査読	北日本病虫研究報	5-7月	三澤 知央	アスパラガス病害に関する論文を審査した
論文査読	Can J of Plant Pathol	7-8月	三澤 知央	アスパラガス病害に関する論文を審査した
論文査読	J Plant Pathol Microbiol	5-10月	三澤 知央	インゲンマメス病害に関する論文を審査した
論文査読	北日本病虫研究報	5-7月	青木 元彦	大豆の害虫に関する論文を審査した
論文査読	日本土壌肥料学会雑誌	4月	日笠 裕治	レンコンの施肥法に関する論文を審査した
論文査読	日本土壌肥料学会雑誌	6月	日笠 裕治	園芸用培土の撥水性に関する論文を審査した
論文査読	北日本病虫研究報	5-6月	三澤 知央	小麦の病害に関する論文を審査した。
論文査読	Plant Disease	10月～11月	三澤 知央	テンサイ病害に関する論文を審査した
論文査読	J Plant Pathol	12月～1月	三澤 知央	牧草病害に関する論文を審査した
論文査読	J Plant Pathol	2月	三澤 知央	樹木病害に関する論文を審査した
書面審査	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会	2月	佐藤 毅	「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」及び「スマート農業加速化実証プロジェクト」課題審査委員に係る書面審査
書面審査	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター 新技術開発部イノベーション創出課	3月	佐藤 毅	イノベーション創出強化研究推進事業1次書面審査

(3) 振興局対応

名 称	相手方	開催日	出席者	開催地
渡島スマートアグリ研究会事務局会議(1回目)	渡島総合振興局	10/17	佐藤 毅 池田 亮司	北斗市
檜山振興局道営農業農村整備事業環境情報協議会	檜山振興局 環境情報協議会	7/18	佐藤 毅	厚沢部町
渡島スマート農業推進セミナー	渡島総合振興局	2/22	佐藤 毅 狩野 康弘	八雲町

(4) 展示会等への出展

名 称	出展日	イベント名称	開催地	内 容
土の吸着能力を知ろう	8/18	はこだて国際科学祭「科学屋台」	函館市	道南農試公開デーを、事務局が公立はこだて未来大学が行っているはこだて国際科学祭のプレイベントとしても実施するとともに、五稜郭タワーでの科学屋台のイベントに参加した。
さつまいもの紹介	10/13	食べる・たいせつフェスティバル2017 in 函館	函館市	道南で作付けしているさつまいもを紹介し、育成系統と合わせて食味に関するアンケート調査を実施。
さつまいもの紹介	11/29	サツマイモとクリの新品種マッチングフェア	東京都	北海道産さつまいもの食味の特徴を理解してもらうために、ペーストの試食を行った。

(5) 研究会の開催

名称(主催・共催の別)	開催日	開催地	参加者数	備考
平成30年度北海道士壤肥料協議会現地検討会(主催)	6/14～15	北斗市、七飯町	48	昭和41年より継続している会である。今年度のテーマを「道南の多様な農業形態～北海道農業のもう一つのあり方～」とし、植物工場、YES!cleanの果樹園、通年利用ハウス、水稻・野菜・肉牛複合経営農家の見学コースを設定した。

V 自己点検

1. 平成30年度計画に係る項目別実績の自己点検結果（課題数は主幹場でカウント）

連番	項目番号	事項	研究本部等		担当	備考
				道南		
1	1	研究ニーズ調査によるニーズ把握件数（H30）	0		連携研究	H30
4	1	各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数（H30）	3		連携研究	H30【別途調査】
7	1	次年度新規課題となったニーズ件数（H30）	1		連携研究	H29【別途調査】
10	2	「H31研究展開方向」に定める研究課題数（H30）	0		研究	H30【研究課題データベース】
13	6	重点研究課題数（H30）	0		研究	H30【研究課題データベース】
14	6	うちH30新規重点研究課題数	0		研究	H30【研究課題データベース】
15	6	うち企業と連携した課題数	0		研究	H30【研究課題データベース】
22	7	経常研究課題数（H30）	3		研究	H30【研究課題データベース】
23	7	うちH30新規経常研究課題数	1		研究	H30【研究課題データベース】
28	8	道受託研究課題数（H30）	0		研究	H30【研究課題データベース】
29	8	うちH30新規道受託研究課題数	0		研究	H30【研究課題データベース】
37	8	公募型研究課題数（H30）	5		研究	H30【研究課題データベース】 ※赤は実数
38	8	うちH30新規公募型研究課題数	1		研究	H30【研究課題データベース】
43	8	公募型研究の管理法人実施件数（H30）	0		研究	H30
46	8	公募型研究による外部資金獲得金額（H30）	31,867		研究	H30【研究課題データベース】
49	8	一般共同研究課題数（H30）	1		研究	H30【研究課題データベース】 ※赤は実数
50	8	うちH30新規一般共同研究課題数	1		研究	H30【研究課題データベース】
55	8	一般共同研究による外部資金獲得金額（H30）	2,000		研究	H30【研究課題データベース】
58	8	受託研究課題数（H30）	0		研究	H30【研究課題データベース】 ※赤は実数
59	8	うちH30新規受託研究課題数	0		研究	H30【研究課題データベース】
64	8	受託研究による外部資金獲得金額（H30）	27,773		研究	H30【研究課題データベース】
67	9	研究課題検討会（専門部会）開催件数（H30）	0		研究	H30
70	10	研究成果発表会・企業等向けセミナーの開催件数（H30）	2		研究	H30
73	10	研究成果発表会・企業等向けセミナーへの延べ参加者数（H30）	160		研究	H30
76	10	研究会等の開催件数（H30）	1		研究	H30
79	10	研究会等への延べ参加者数（H30）	48		研究	H30

(続き)

91	12	出願中特許等件数 (H30)	0	研究	H30
92	12	うち特許等新規出願件数 (H30)	0	研究	H30
97	12	特許権等保有件数 (H30)	0	研究	H30
98	12	うち特許等新規登録件数 (H30)	0	研究	H30
99	12	うち特許権等放棄・権利消滅件数 (H30)	0	研究	H30
106	12	出願品種数 (H30)	0	研究	H30
107	12	うち新規出願品種数 (H30)	0	研究	H30
112	12	登録品種数 (H30)	3	研究	H30
113	12	うち新規登録品種数 (H30)	0	研究	H30
114	12	うち育成者権登録抹消・存続期間満了品種数 (H30)	0	研究	H30
121	12	ノウハウ指定された技術数 (H30)	0	研究	H30
122	13	特許等の実施許諾契約件数 (H30)	0	研究	H30
123	13	登録品種等の利用許諾件数 (H30)	5	研究	H30
130	14	課題対応型支援の実施件数 (H30)	0	連携	H30
131	14	技術審査件数 (H30)	0	連携	H30
136	14	技術開発派遣指導件数 (H30)	0	連携	H30
139	14	技術開発派遣指導派遣日数 (H30)	0	連携	H30
142	15	インキュベーション施設の貸与日数 (H30)	0	連携	H30
145	15	インキュベーション施設の利用企業数 (H30)	0	連携	H30
148	16	建築性能評価の実施件数 (H30)	0	連携	H30
151	16	試験体の製作件数 (H30)	0	連携	H30
154	16	構造計算適合性判定の実施件数 (H30)	0	連携	H30
157	17	研修会・講習会等の開催件数 (H30)	3	連携	H30
160	17	研修会・講習会等の延べ参加者数 (H30)	147	連携	H30
163	17	研修者の延べ受入人数 (H30)	3	連携	H30
164	17	うち企業等技術者や地域産業担い手の受入人数 (H30)	0	連携	H30
165	17	うち大学等の学生の受入人数 (H30)	0	連携	H30

(続き)

264	26	うちシーズ探索型研究課題数	0	研究	H30
265	26	うち技術支援型研究課題数	0	研究	H30
274	26	海外研修の派遣件数 (H30)	0	研究	H30
277	26	海外研修の派遣人数 (H30)	0	研究	H30
280	26	国内研修 I の派遣件数 (H30)	0	研究	H30
283	26	国内研修 I の派遣人数 (H30)	0	研究	H30
286	26	国内研修 II の派遣件数 (H30)	3	研究	H30
289	26	国内研修 II の派遣人数 (H30)	5	研究	H30
292	29	寄附金の受入件数 (H30)	0	研究	H30
295	29	寄附金の受入金額 (H30)	0	研究	H30
298	38	視察者・見学者の受入件数 (H30)	17	広報 連携	H30
301	38	視察者・見学者の延べ受入人数 (H30)	206	広報 連携	H30
304	38	出前授業の実施件数 (H30)	1	広報	H30
305	38	道民向けイベントの開催件数 (H30)	3	広報	H30
306	38	うち公開デー等の開催件数 (H30)	1	広報	H30
313	38	道民向けイベントの延べ参加者数 (H30)	422	広報	H30
314	38	うち公開デー等の延べ参加者数 (H30)	262	広報	H30
319	38	国際協力事業等への協力件数 (H30)	1	連携	H30
322	40	災害等に関係した道受託研究等件数 (H30)	0	研究	H30
325	40	災害等に関係した技術指導件数 (H30)	0	研究	H30
328	40	災害等に関係した委員派遣件数 (H30)	0	研究	H30
331	42	グリーン購入の金額 (H30)	92	経営	H30

付表 1. 作物標準栽培法の概要

各試験に共通する水稲、畑作物についての当場の標準栽培法は、下記のとおりであるが、特殊なものについては各試験ごとに記載する。

作物名	栽培方法	苗代種類	選 種	播 種 期	苗 代 (1 m ²)		
					基 肥	追 肥	播 種 量
水 稻	中苗栽培	冷 床	塩水選 (1.06)	4月中下旬	N = 5.6g	N=1g/箱	500g散播
	稚苗栽培				P ₂ O ₅ = 11.1g	N=1g/箱	1kg散播
					K ₂ O = 9.4g		

作物名	栽培方法	施肥量(kg/a)			移植期	畦幅×株間 (cm)	m ² 当 株数	一株 本数	病虫 防除
		基 肥	追肥	同時期					
水 稻	中苗栽培	N = 0.8	—	—	5月下旬	33×12	25株	3 ~ 4	3回
	稚苗栽培	P ₂ O ₅ = 1.0 K ₂ O = 0.7							

備考 除草剤：初中期一発剤フロアブル50ml/a、後期は発生に応じて適時実施。
堆 肥：100kg/a。

作物名	施 肥 量 (kg/a)					畦幅×株間 (cm)	播種期 (月日)	1 株 本数	中耕	除草	防除
	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO						
大 豆	0	0.15	1.17	0.75	0.35	60×20	5.13	2本	1回	3回	6回
小 豆	0	0.30	1.17	0.75	0.35	60×20	6.4	2本	1回	3回	6回

付表 2. 土壤の理化学的特性

土壤条件：中粗粒褐色低地土(一部礫質褐色低地土)

(1) 水田

層 厚	国際法粒径組成 (%)					三相分布 (%)			
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性	固相	液相	気相	孔隙率
0~12cm	23.9	40.2	23.3	12.6	L	44.7	45.7	9.6	55.3
~21	19.1	40.3	18.7	21.9	CL	49.2	49.2	3.9	53.1
~35	6.1	37.7	40.2	16.1	CL	49.1	37.4	13.5	50.9

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交換 容 量 (me/100g)	リン酸吸 収係数
	H ₂ O	KCL						
0~12cm	5.9	4.9	2.2	0.18	12.2	1.0	18.0	846
~21	5.1	4.0	1.2	0.12	9.7	10.2	17.6	742

(2) 畑土壤

層 厚	国際法粒径組成 (%)					容 積 重 (g/100cc)	孔隙率 (%)	有効態 リン酸 (mg/100g)	リン酸 吸収 係数
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
0~14cm	12.1	48.4	24.7	14.8	L	129	50.3	45.5	827
~30	0.5	37.6	45.2	16.7	CL	129	49.9	43.5	1374

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交 換容量 (me/100g)	交換性塩基 (me/100g)		
	H ₂ O	KCL						Ca	Mg	K
0~14cm	5.3	4.6	2.3	0.19	12.2	3.6	22.5	9.4	1.5	1.0
~30	5.0	5.0	1.0	0.11	9.5	0.7	27.7	18.2	3.5	0.5

平成30年度 道南農業試験場年報

令和元年7月

地方独立行政法人北海道立総合研究機構

農業研究本部道南農業試験場

〒041-1201 北海道北斗市本町680番地

TEL (0138) 77-8116

FAX (0138) 77-7347

E-mail donan-agri@hro.or.jp

ホームページ <https://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/dounan/index.html>
